

平成28年度  
全国学力・学習状況調査報告書

～当別町における結果分析～

平成28年12月

当別町教育委員会



# 目 次

<b>I 調査について</b>	
1 目的	1
2 対象学年	1
3 内容	1
4 期日	1
5 実施した学校・児童生徒数	1
<b>II 調査結果の概要</b>	2
<b>III 小学校の分析</b>	
<b>1) 学力調査</b>	
1 教科ごとの結果概要	3
2 教科ごとの平均正答率と平均正答数	3
3 全国平均を基準（100）とした場合の領域ごとの正答率	4
4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	4
5 教科の改善策	4
6 各教科に関する調査結果	
国語A（知識）	5
国語B（活用）	6
算数A（知識）	7
算数B（活用）	8
<b>2) 学習状況調査（生活習慣・学習環境等）</b>	
生活習慣	9
家庭学習	10
自己理解、自尊意識、規範意識	11
学校生活	12
社会生活	13
総合的な学習の時間、道徳、学習	14
授業	15
国語の学習	16
算数の学習	17
調査時間	18
<b>IV 中学校の分析</b>	
<b>1) 学力調査</b>	
1 教科ごとの結果概要	19
2 教科ごとの平均正答率と平均正答数	19
3 全国平均を基準（100）とした場合の領域ごとの正答率	20
4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	20
5 教科の改善策	20
6 各教科に関する調査結果	
国語A（知識）	21
国語B（活用）	23
数学A（知識）	24
数学B（活用）	26

<b>2) 学習状況調査（生活習慣・学習環境等）</b>	
生活習慣	27
家庭学習	28
自己理解、自尊意識、規範意識	29
学校生活	30
社会生活	31
総合的な学習の時間、道徳、学習	32
授業	33
国語の学習	34
数学の学習	35
調査時間	36
<b>V 小学生から中学生への経年変化</b>	
1) 学力の経年変化	37
2) 生活習慣・学習環境等の経年変化	38
<b>VI 教育委員会としての学力・生活習慣の向上に向けた取り組み</b>	40

# I 調査について

- 1 目的**
- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
  - イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
  - ウ 以上のような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

**2 対象学年** 小学校第6学年、中学校第3学年

## 3 内容

### ①教科に関する調査（国語、算数・数学）

【国語A、算数・数学A】	【国語B、算数・数学B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・主として「知識」に関する問題</li><li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・主として「活用」に関する問題</li><li>・知識、技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>・様々な課題解決のために構想を立てて実践し、改善する力等にかかわる内容</li></ul>

### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況に関する調査

**4 期日** 平成28年4月19日（火）

## 5 実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	対象児童生徒数	参加児童生徒数	参加率
小学校	2	126人	118人	93.65%
中学校	2	161人	153人	95.03%
合計	4	287人	271人	94.43%

※参加児童生徒数は、対象となる児童生徒数のうち、当日体調不良等により参加できなかった児童生徒を除く人数

## Ⅱ 調査結果の概要

本調査は、今年で10年目となる。今年度の当別町の小・中学校の状況は、全国の平均正答率・正答数と比較して、10年間で一番良い結果であった。

小学校では、国語Aで0.5ポイント、算数Bで0.7ポイントとわずかに下回った程度で全国との差はほとんどなく、国語Bでは3.8ポイント、算数Aで2.6ポイントとの差であったが、これまでで全国に一番近づくなど、学習内容の定着が進んでいることが窺える。

中学校では、領域別のほとんどの問題で全国を超える結果となった。国語A・Bでわずかに下回ったものの、数学A・Bは、全国を上回った。

また、現在の中学校3年生が小学校6年生だった当時と比べた学力の経年変化をみると、小6当時は、全教科で全国を下回っていたが、中3現在では、国語A・Bで全国との差が縮まり、数学A・Bでは全国を上回る結果となった。これらのことから中学校での指導の成果が窺える。

学校別にみると4校のうち、小学校1校、中学校1校が全教科で全国平均を上回り、他の2校も徐々に成果を出している。

下位層<sup>\*</sup>をみると、小学校の国語A、算数Bと中学校の数学A・Bで全国より少なく、他の教科では、最大で5.0ポイントの差であったが、着実に小・中学校ともに底上げされている。

これら成果の要因として、

- (1) 中学校では5教科にデジタル教科書を取り入れるなど、ICT機器の導入による授業改善が図られていること。
- (2) 小中一貫教育の取り組みにより意識改善が図られ、授業規律、授業の展開方法に統一感が出始めていること。
- (3) 習熟度別学習やTT指導などの授業改善が定着したこと。
- (4) 学校支援地域本部事業、退職人材や学生ボランティアを活用しながら、夏休みなどの長期休業期間、放課後、土曜などで町教育委員会と学校が連携して学習会を実施していること。

などがあげられる。

※下位層とは、全国の下位25%と同じ正答数の範囲に属する児童生徒の割合のこと。

### Ⅲ 小学校の分析

#### 1) 学力調査

##### 1 教科ごとの結果概要

###### 【国語】

- ① 平均正答率では、若干の差がみられるが、平均正答数ではほぼ差はなかった。これまでで全国に一番近づいた。
- ② 国語Aでは、本年度、3年生で学習する「ローマ字で書く」、「ローマ字を読む」という問題が3問出され、それぞれ全国平均を下回った。当該学年での学習に留まらず、学校生活や日常生活の中で継続した指導をすることが必要である。
- ③ 領域別では、国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国を上回った。国語Bの「話すこと」、「聞くこと」、「読むこと」の領域で落ち込みがみられた。国語Bの「書くこと」の領域では、全国より下回ったものの、全国に近づいており、ノート指導や学習規律定着の成果が表れている。

###### 【算数】

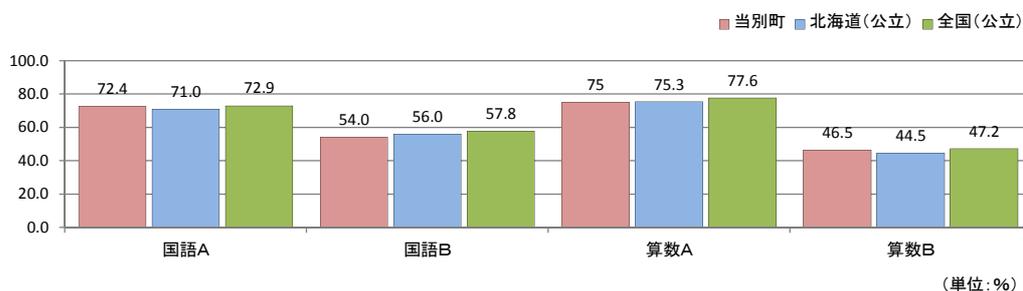
- ① 平均正答率・正答数ともに全国とほとんど差はなかった。
- ② 領域別では、算数Aの「数量関係」、算数Bの「数と計算」の領域で全国を上回った。算数A・Bともに「図形」の領域で落ち込みがみられており、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、図形についての理解を深めることが大切である。
- ③ 下位層の割合は、算数Bが全国より少なく、昨年度からも大きく減少した。習熟度別学習やT・T指導などの授業改善、放課後学習や土曜学習などの成果がみられる。

##### 2 教科ごとの平均正答率と平均正答数

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数						
当別町	72.4	(10.9/15)	54.0	(5.4/10)	75.0	(12.0/16)	46.5	(6.1/13)
北海道(公立)	71.0	(10.7/15)	56.0	(5.6/10)	75.3	(12.0/16)	44.5	(5.8/13)
全国(公立)	72.9	(10.9/15)	57.8	(5.8/10)	77.6	(12.4/16)	47.2	(6.1/13)
全国との差	▲ 0.5	(-0.0/15)	▲ 3.8	(-0.4/10)	▲ 2.6	(-0.4/16)	▲ 0.7	(-0.0/13)
昨年度の全国との差	▲ 6.5	(-0.9/14)	▲ 6.8	(-0.6/10)	▲ 7.6	(-1.2/16)	▲ 4.0	(-0.6/13)
昨年度と差の比較	+ 6.0		+ 3.0		+ 5.0		+ 3.3	

※( )内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載。

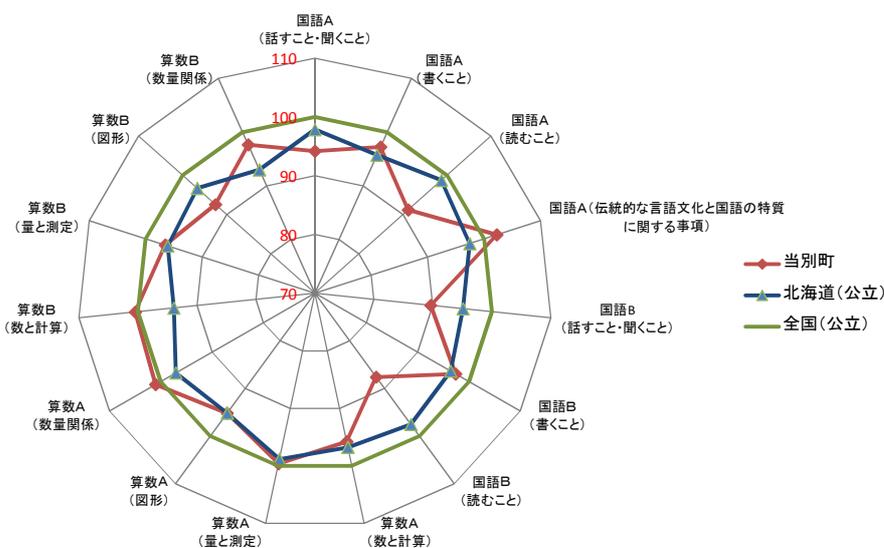
※平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語A、国語B、算数A、算数Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。



### 3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率

	国語A (話すこと・聞くこと)	国語A (書くこと)	国語A (読むこと)	国語A (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語B (話すこと・聞くこと)	国語B (書くこと)	国語B (読むこと)	算数A (数と計算)	算数A (量と測定)	算数A (図形)	算数A (数量関係)	算数B (数と計算)	算数B (量と測定)	算数B (図形)	算数B (数量関係)
問題数	1/15	2/15	2/15	10/15	3/10	6/10	3/10	10/16	2/16	2/16	3/16	6/13	5/13	3/13	6/13
当別町	94.2	97.3	91.2	102.3	89.6	97.4	87.6	95.8	99.6	95.2	101.0	100.5	96.6	92.6	97.7
北海道(公立)	97.9	95.7	98.7	97.5	95.1	96.4	97.5	96.8	98.8	95.2	97.1	93.9	96.1	96.7	93.0
全国(公立)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

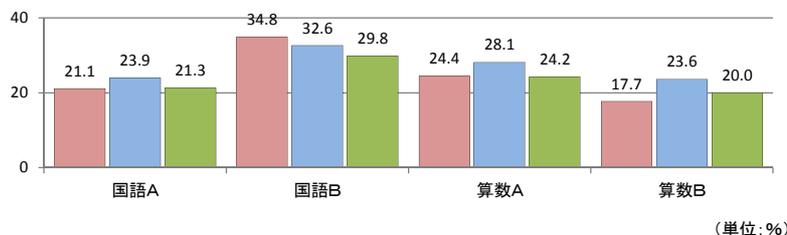
教科の領域別に全国を100とした場合の状況をレーダーチャートで示したものを。  
(当別町児童の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



### 4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	国語A			国語B			算数A			算数B		
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	21.1%	23.9%	21.3%	34.8%	32.6%	29.8%	24.4%	28.1%	24.2%	17.7%	23.6%	20.0%
	15問中8問以下			10問中4問以下			16問中10問以下			13問中3問以下		
全国との差	-0.2%	少ない		5.0%	多い		0.2%	多い		-2.3%	少ない	
昨年の全国との差	16.5%	多い		11.4%	多い		15.4%	多い		5.5%	多い	
昨年度と差の比較	-16.7%	減少		-6.4%	減少		-15.2%	減少		-7.8%	減少	

■ 当別町 ■ 北海道 ■ 全国



### 5 教科の改善策

- 国語では、発表力、読解力の育成のために文章を段落や話のまとまりを意識して読ませたり、一斉音読、グループ音読やペア音読などを活用し、声に出して自分の読み方が正しいかを確認させるなど、ポイントを押さえた指導が大切である。
- 算数では、計算力を高めるために、計算の際には位を揃えて丁寧に書く、間違ったところを消さずにその横へ正答を書いて、後から自分で見てわかるように書き方を工夫するなど、ノート指導を継続することが大切である。
- 低・中・高学年の発達段階に応じて、統一した学習規律やノート指導、板書の工夫、習熟度別学習やTT指導の工夫改善、ICT機器の活用など、授業改善の取り組みを強化・継続していくことが「基礎学力の定着」、「下位層の解消」につながる。



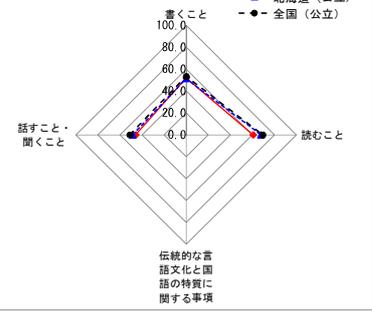
# 小学校 [国語B：主として活用]

○国語Bの学力調査では、当別町児童の平均正答率が54.0%で、全国の57.8%より3.8ポイント下回った。昨年度は、6.8ポイント下回っていたので、3.0ポイント縮まった。  
○指導要領の「書くこと」の領域では全道を上回っているが、「読むこと」の領域が全国より低い結果となり、国語Aと同様に「読むこと」の領域で課題がある。

## 集計結果

## <学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象児童数		当別町教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
		118	40,264	1,021,635	
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
全体		10	54.0	56.0	57.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	45.8	48.6	51.1
	書くこと	6	<b>52.0</b>	51.5	53.4
	読むこと	3	60.7	67.6	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	51.1	52.9	54.7
	話す・聞く能力	3	45.8	48.6	51.1
	書く能力	6	<b>52.0</b>	51.5	53.4
	読む能力	3	60.7	67.6	69.3
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	6	55.9	58.0	59.9
	短答式	0			
	記述式	4	51.1	52.9	54.7



## 設問別集計結果

\*一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)
1一	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらないものを選択する	目的に応じて、質問したいことを整理する	5-6エ					○			○			48.3	50.8	51.8	0.0	0.3	0.3
1二	スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	5-6エ					○			○			44.9	48.1	51.1	0.8	0.5	0.5
1三	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する	5-6エ	5-6ウ			○	○	○			○		44.1	47.0	50.4	<b>(12.7)</b>	9.6	7.8
2一	「早ね早起き」活動の成果について、(図1)の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する	グラフを基に、分かったことを的確に書く	5-6エ					○			○			<b>43.2</b>	41.2	43.4	0.8	1.3	1.2
2二(1)	「早ね早起き」活動の課題について、(図2)の結果を基に書く	目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く	5-6エ				○	○			○			<b>52.5</b>	51.3	51.4	<b>(7.6)</b>	7.6	6.7
2二(2)	「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、(表2)の結果を基に書く	目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く	5-6エ				○	○			○			60.2	62.3	64.2	<b>(5.9)</b>	8.9	7.7
2三	「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する	活動報告文において、課題を取り上げた効果捉える	5-6イ					○			○			<b>64.4</b>	56.5	58.3	0.8	4.7	4.2
3一	「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明と適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む		5-6カ						○	○			68.6	75.1	77.2	3.4	3.0	2.9
3二	「パン職人」に関する複数の資料の内容を関係付けてまとめたものとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する		5-6イ						○	○			66.1	76.6	77.9	<b>(5.9)</b>	3.6	3.4
3三	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く	目的に応じて、文章の内容を的確に探さえ、自分の考えを明確にしながら読む	5-6ウ	5-6ウ			○	○	○		○			47.5	50.9	52.9	<b>(16.9)</b>	12.8	11.5

※当別町の差りつづしは、平均正答率が全国以上のもの  
 ※当別町の斜体は、平均正答率が全道以上のもの  
 ※無回答率の( )書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	2/10問
平均正答率が全道以上の設問数	3/10問
無回答率が5%以上の設問数	5/10問

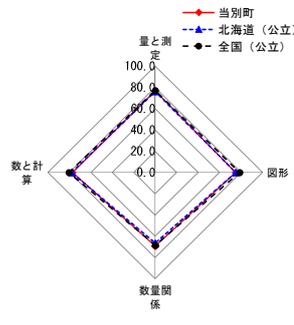
# 小学校 [算数A：主として知識]

○算数Aの学力調査では、当別町児童の平均正答率が75.0%で、全国の77.6%より2.6ポイント下回った。昨年度は、7.6ポイント下回っていたので、5.0ポイント縮まった。  
 ○指導要領の「量と測定」の領域で、昨年度より全国との差が縮まった。「数量関係」の領域では、全国を上回る結果となった。  
 ○指導要領の「図形」の領域で、昨年度と同じく全国との差が開いた。図形についての知識や理解を深めることが大切である。

## 集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象児童数		当別町教育委員会	北海道（公立）	全国（公立）	
		118	40,276	1,021,910	
分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）		
			当別町	北海道（公立）	全国（公立）
全体		16	75.0	75.3	77.6
学習指導要領の領域	数と計算	10	77.1	77.9	80.5
	量と測定	2	<b>76.7</b>	76.1	77.0
	図形	2	<b>75.0</b>	75.0	78.8
	数量関係	3	<b>69.2</b>	66.5	68.5
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	5	<b>81.0</b>	80.2	82.5
問題形式	数量や図形についての知識・理解	11	72.3	73.0	75.4
	選択式	5	71.9	73.0	75.8
	短答式	11	<b>76.4</b>	76.3	78.5
	記述式	0			



## 設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（%）			無解答率（%）			
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道（公立）	全国（公立）	当別町	北海道（公立）	全国（公立）	
1 (1)	□÷0.8の商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解している	5A (3) アイ									○	○		52.5	61.1	64.8	0.8	1.2	1.3
1 (2)	2.1÷0.7を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している	4A (2) エ 5A (3) イフ									○	○		63.6	64.6	68.5	0.0	0.4	0.4
1 (3)	小数の除法の結果を、乗法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	除法における計算の確かめの方法を理解している	3A (4) イ 4A (2) エ 5A (3) イフ									○	○		83.1	86.3	87.9	0.8	1.1	1.1
2 (1)	905-8を計算する	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	3A (2) ア						○			○			<b>94.1</b>	90.2	90.9	0.0	0.3	0.4
2 (2)	4.65+0.3を計算する	末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる	4A (5) イ						○			○			72.9	76.7	77.1	0.0	0.4	0.5
2 (3)	18÷0.9を計算する	小数の除法の計算をすることができる	5A (3) イ						○			○			<b>79.7</b>	72.7	77.7	0.8	1.2	1.1
2 (4)	(2/9)×3を計算する	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができる	5A (4) ウカ						○			○			80.5	82.6	87.0	1.7	2.6	1.9
3 (1)	二つの数の大小関係を表す不等号を書く	不等号を理解している	2A (1) イ 3A (1) ア									○	○		<b>97.5</b>	96.7	96.7	0.8	0.5	0.6
3 (2)	7.1, 7.7, 0.1の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	数の大小関係を理解している	4A (2) ア									○	○		65.3	71.6	74.1	0.8	0.3	0.4
4	8m <sup>2</sup> に14人座っているシートについて、1m <sup>2</sup> 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	5B (4) ア									○	○		<b>75.4</b>	72.2	72.0	1.7	4.4	4.3
5	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ	三角形の底辺と高さの関係について理解している	5B (1) ア									○	○		78.0	80.1	82.0	2.5	1.2	1.1
6	4枚の三角定規でつくることのできる形を選ぶ	図形の構成要素に着目して、図形を構成することができる	1C (1) イ 2C (1) イ 3C (1) ア 4C (1) イ						○			○			78.0	78.7	79.6	1.7	1.1	1.0
7	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ	直方体における面と面の位置関係を理解している	4C (2) ア 5A (1) イ									○	○		<b>72.0</b>	71.3	78.0	1.7	2.9	2.5
8	テープ全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ	全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している	5B (3)									○	○		<b>78.8</b>	74.1	74.4	3.4	2.5	2.1
9 (1)	前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く	示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる	1A (1) イ 1A (2) ア									○	○		<b>82.2</b>	76.8	80.2	<b>(5.1)</b>	4.7	4.2
9 (2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している	5B (3)									○	○		46.6	48.7	50.9	<b>(10.2)</b>	6.5	5.7

※当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの  
 ※当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの  
 ※無回答率の( )書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	6/16問
平均正答率が全道以上の設問数	7/16問
無回答率が5%以上の設問数	2/16問



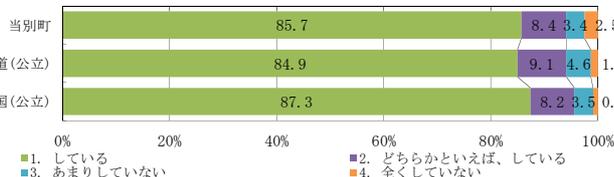
## 2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

### 小学校:生活習慣

#### 【特徴】

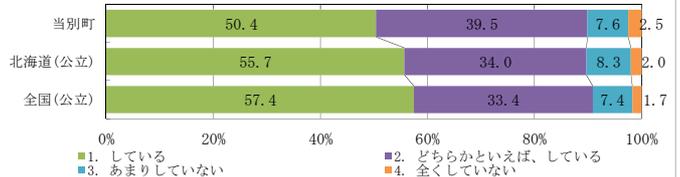
- ①昨年度と同様、「朝食を食べてない・あまり食べていない」と答えた児童の割合が高い。就寝時刻も平成25年度調査より遅くなっている。
- ②TV・DVDの視聴時間、TVゲームやインターネットの時間が昨年度より増加し、平日、1時間以上読書する割合が、昨年度より減少した。
- ③小学生の携帯電話・スマートフォンの保有率が6割を超え、全国平均より多い。

#### 「朝食を毎日食べていますか」



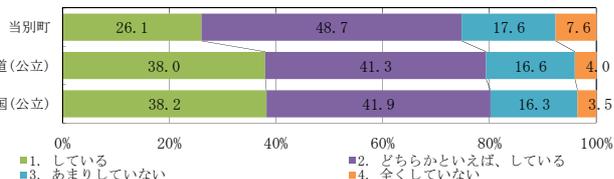
【生活習慣】「食べている」「どちらかといえば食べている」と答えた児童の割合は94.1%で、全国より1.4ポイント少なく、昨年度より0.3ポイント減少した。2年連続で微減している。

#### 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」



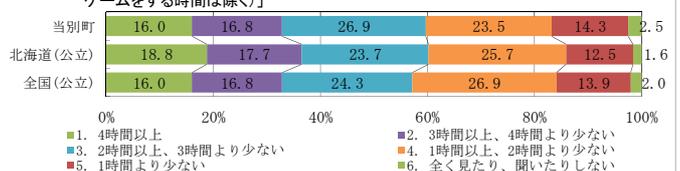
【生活習慣】「毎日同じ時刻に起きている」「どちらかといえば起きている」と答えた児童の割合は89.9%で、全国より0.9ポイント少なく、昨年度より1.2ポイント増加した。

#### 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」



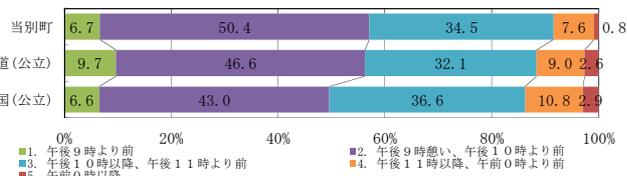
【生活習慣】「毎日同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば寝ている」と答えた児童の割合は74.8%で、全国より5.3ポイント少なく、昨年度より0.2ポイント減少した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)」



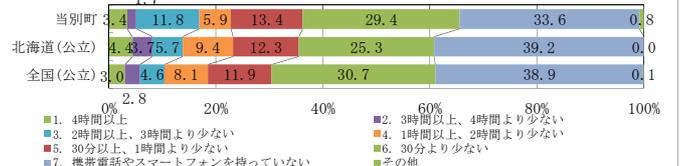
【生活習慣】視聴時間が「2時間以上」と答えた児童の割合は59.7%で、全国より2.6ポイント多く、昨年度の1.6ポイント増加した。

#### 「普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか」



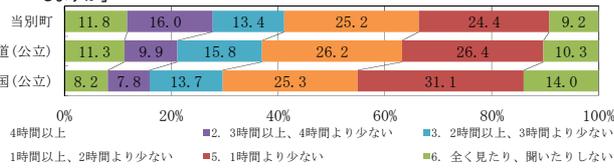
【生活習慣】「午後10時以降」と答えた児童の割合は42.9%で、全国より7.4ポイント少ない。平成25年度調査より1.9ポイント増加した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」



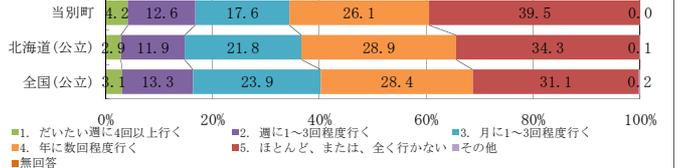
【生活習慣】「2時間以上」と答えた児童の割合は、16.9%で全国より6.5ポイント多く、昨年度より7.3ポイント増加した。「携帯電話・スマートフォンを持っていない」児童の割合は、33.6%で昨年度より10.8ポイント減少した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」



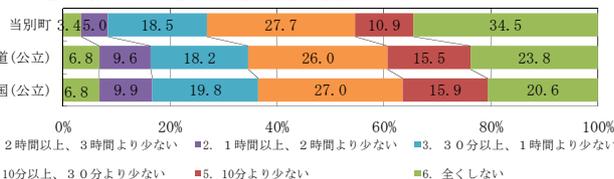
【生活習慣】「2時間以上」と答えた児童の割合は、41.2%で、全国より11.5ポイント多く、昨年度より10.5ポイント増加した。2年連続で増加した。

#### 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きましますか」



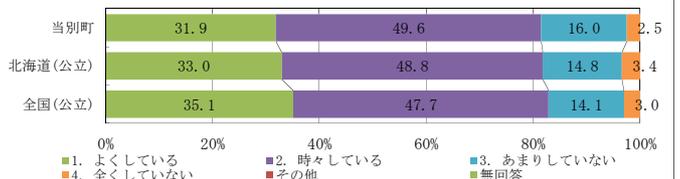
【生活習慣】「週1回以上行く」と答えた児童の割合は16.8%で、全国より0.4ポイント多く、昨年度より6.6ポイント減少した。

#### 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」



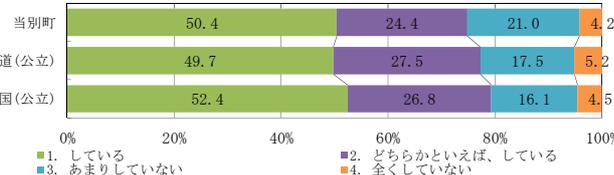
【生活習慣】「1時間以上」と、答えた児童の割合は8.4%で、全国より8.3ポイント少なく、昨年度より15ポイント減少した。

#### 「家の手伝いをしていますか」



【生活習慣】「よくしている」「時々している」と答えた児童の割合は81.5%で、全国より1.3ポイント少なく、平成25年度調査より5ポイント減少した。

#### 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」



【生活習慣】「している」「どちらかというとしている」と答えた児童の割合は74.8%で、全国より4.4ポイント少なく、昨年度より7.5ポイント減少した。

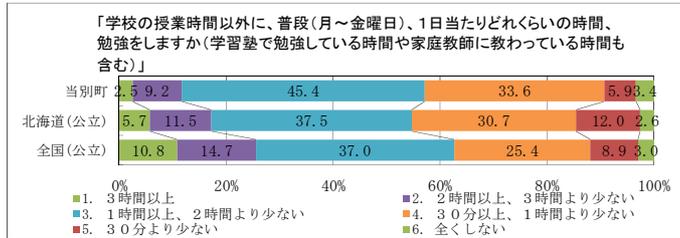
## 小学校:家庭学習

### 【特徴】

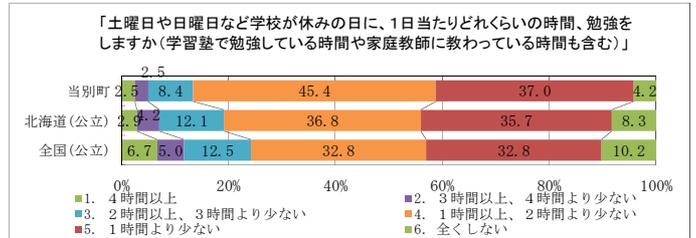
①「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」との質問に「している」、「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした児童の割合が高い。

②「学習塾(家庭教師を含む)で勉強していますか」との質問に「学習塾に通っていない」と回答した児童の割合が高い。

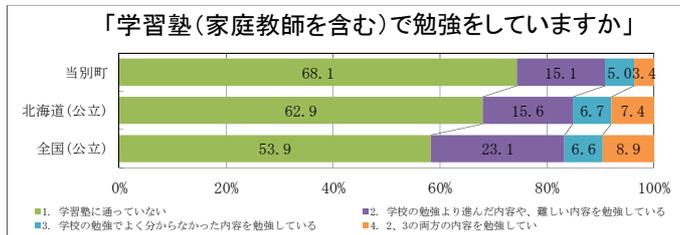
③「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」との質問に「している」、「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした児童の割合が全国より高く、家庭学習で教科書、プリントをきちんと活用している。



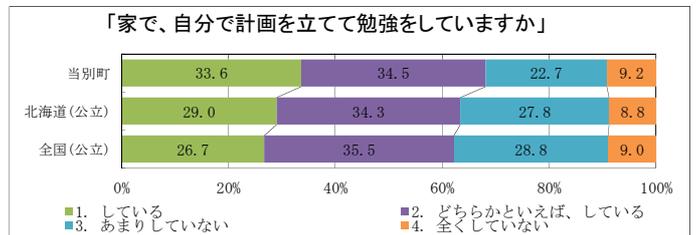
【家庭学習】「1時間以上」と、答えた児童の割合は57.1%で、全国より5.4ポイント少なく、昨年度より10.6ポイント減少した。



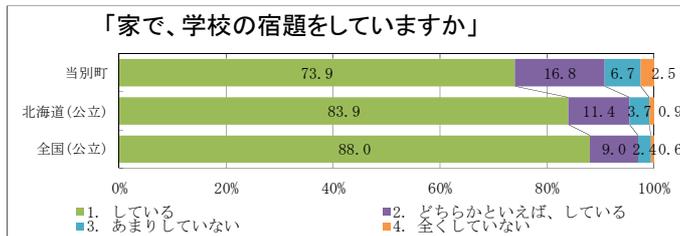
【家庭学習】「1時間以上」と、答えた児童の割合は58.8%で、全国より1.8ポイント多く、昨年度より17.8ポイント減少した。



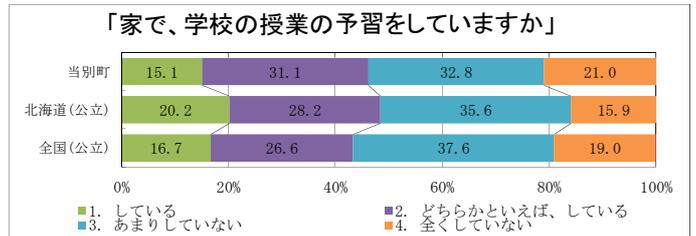
【家庭学習】「塾に通っていない」と答えた児童の割合が68.1%で、全国より14.2ポイント多く、昨年度より21.1ポイント減少した。



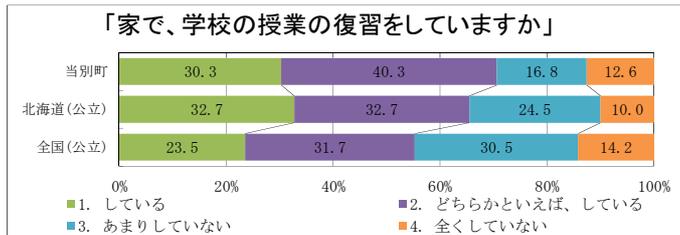
【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は68.1%で、全国より5.9ポイント多く、昨年度より4.4ポイント減少した。



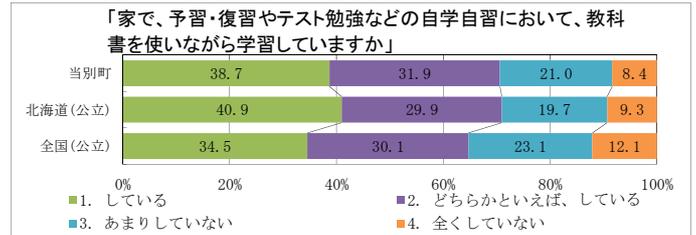
【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は90.7%で、全国より6.3ポイント少なく、昨年度より6.9ポイント減少した。



【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は46.2%で、全国より2.9ポイント多く、昨年度より11.9ポイント減少した。



【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は70.6%で、全国より15.4ポイント多く、昨年度より3.6ポイント減少した。



【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は70.6%で、全国より6ポイント多い。《新規》

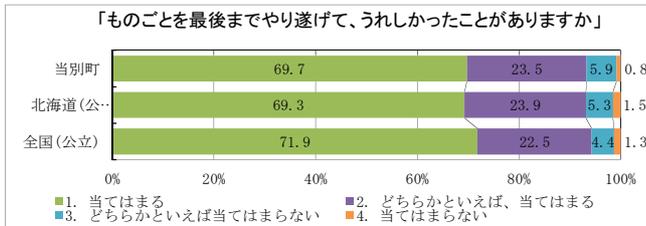
## 小学校：自己理解、自尊意識、規範意識

### 【特徴】

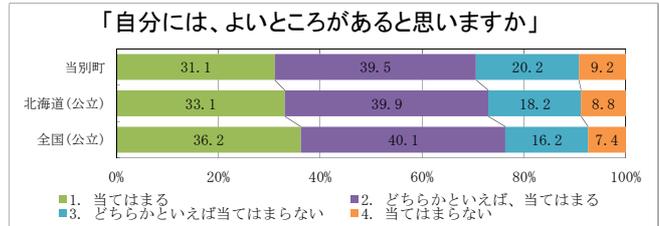
①「自分には、よいところがあると思いますか」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ですか」との質問に肯定的な回答をした児童の割合が、全国を下回り、昨年度と比べて減少した。授業や行事などの活動の中で、自己有用感や自己効力感、成就感を体感させる取り組みが必要である。

②「学校の規則を守っていますか」、「友達との約束を守っていますか」との質問に肯定的な回答をした児童の割合は、前回調査より増加し、遵法意識が高まっていると推測される。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合も全国と同様の数値となった。

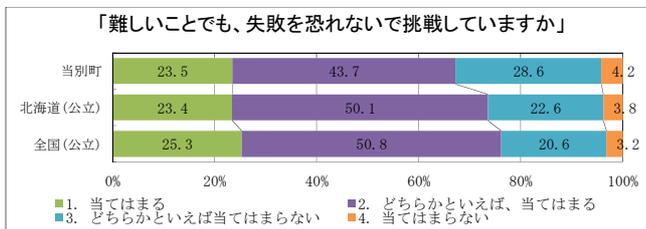
③「いじめは、どんな理由があってもよくない」と回答した児童の割合は、84.0%で、全国平均より多いものの、昨年度より減少している。引き続き人権教育を実施していくことが必要である。



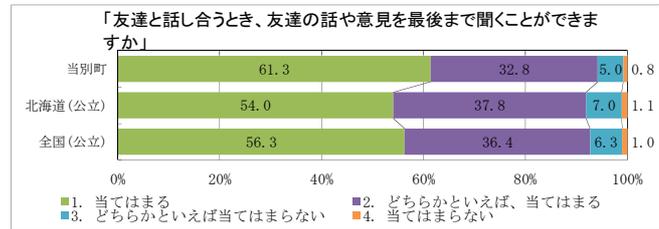
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は93.2%で、全国より1.2ポイント少なく、昨年度より0.3ポイント減少した。



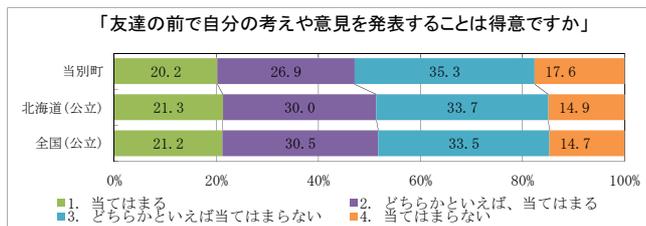
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は70.6%で、全国より5.7ポイント少なく、昨年度より8.4ポイント減少した。



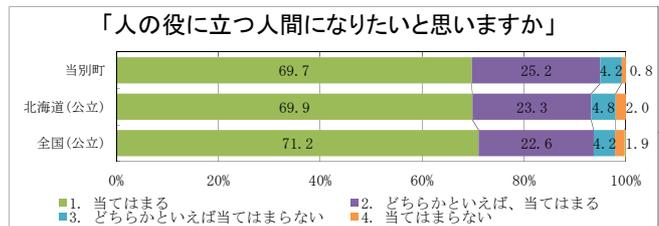
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は67.2%で、全国より8.9ポイント少なく、昨年度より9.5ポイント減少した。



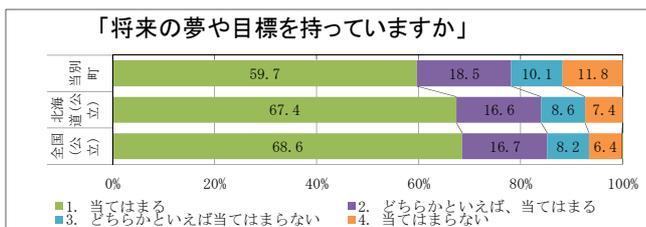
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は94.1%で、全国より1.4ポイント多く、昨年度より1.4ポイント増加した。



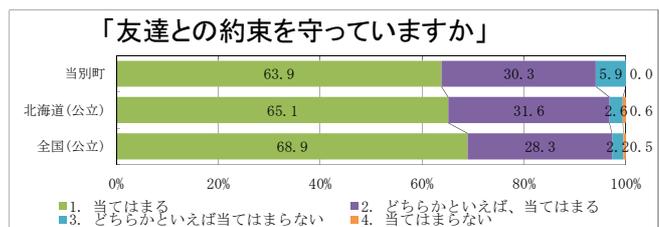
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は47.1%で、全国より4.6ポイント少なく、昨年度より8.6ポイント減少した。



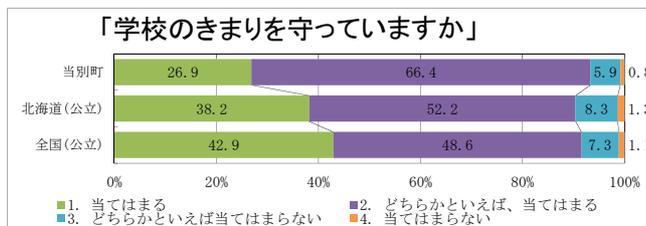
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は94.9%で、全国より1.1ポイント多く、昨年度より1.8ポイント減少した。



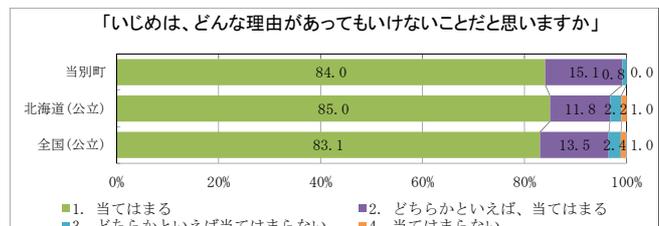
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は78.2%で、全国より7.1ポイント少なく、昨年度より11.3ポイント減少した。



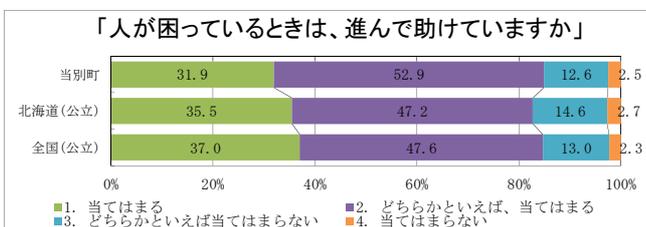
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は94.2%で、全国より3.0ポイント少ない。平成26年度調査より2.7ポイント増加した。



【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は93.3%で、全国より1.8ポイント多く、昨年度より7.0ポイント増加した。



【自尊・規範】「当てはまる」と答えた児童の割合は84.0%で、全国より0.9ポイント多く、昨年度より2.3ポイント減少した。



【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は84.8%で、全国より0.2ポイント多い。《新規》

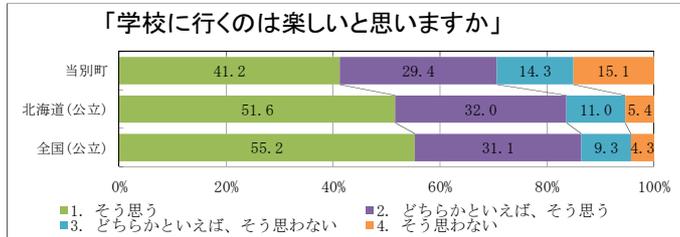
## 小学校:学校生活

### 【特徴】

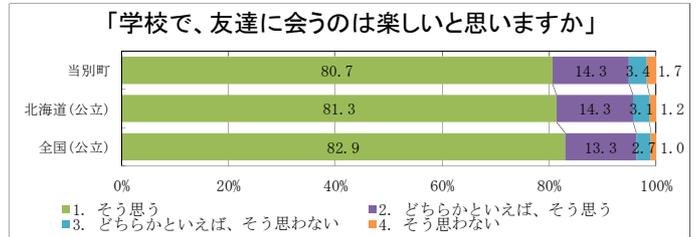
①「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的に回答した児童の割合は、昨年度より減少している。一方で「学校で、好きな授業がある」と回答した児童の割合は、7割を超えている。学校、学級はもとより、子ども同士による楽しい雰囲気づくりが大切である。

②「学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めている」と肯定的な回答をした児童の割合が約8割で、全国より低いが、昨年度より増加している。引き続き、みんなで話し合い、物事や社会の決まりが形成されていく過程の大切さを学べるよう、指導改善が必要である。

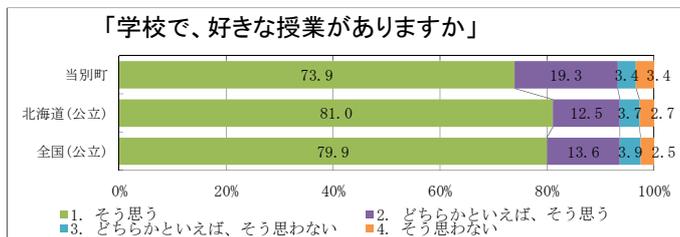
③「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」との質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国とほぼ同様だった。自己理解を高めるためにも成就感、達成感を実感できる指導方法の工夫が必要である。



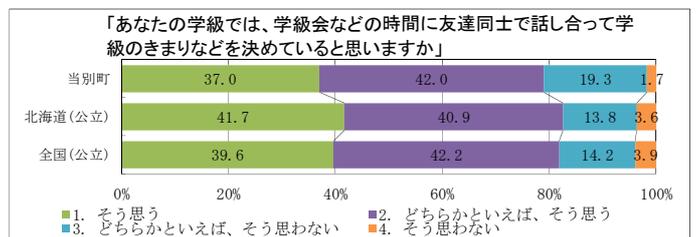
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は70.6%で、全国より15.7ポイント少なく、昨年度より12.5ポイント減少した。



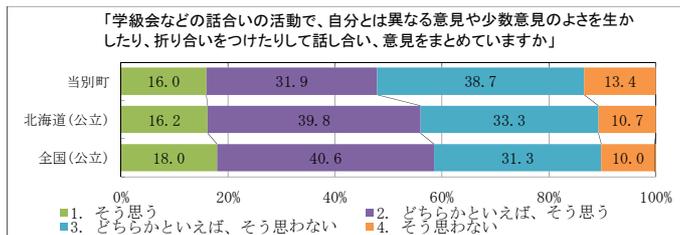
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は95.0%で、全国より1.2ポイント少なく、平成25年度調査より0.5ポイント減少した



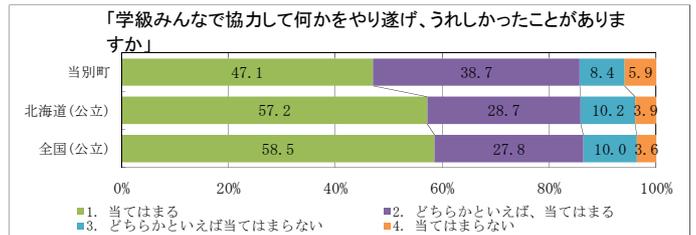
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は83.2%で、全国より0.3ポイント少ない。《新規》



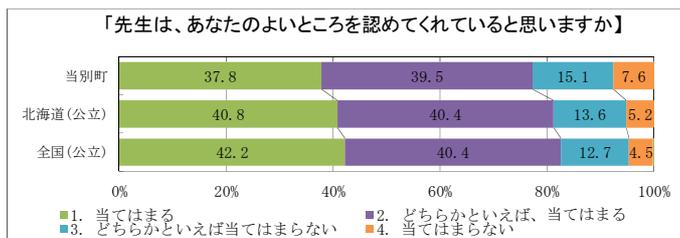
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は79.0%で、全国より2.8ポイント少なく、昨年度より7.3ポイント増加した。



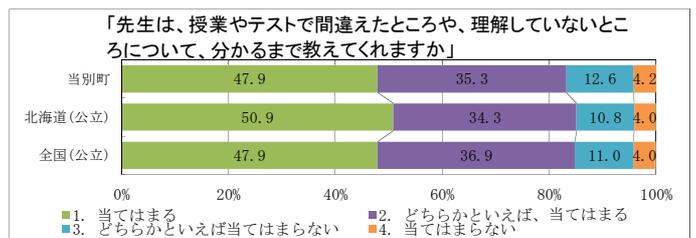
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は47.9%で、全国より10.7ポイント少ない。《新規》



【学校生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は85.8%で、全国より0.5ポイント少なく、昨年度より1.3ポイント減少した。



【学校生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は77.3%で、全国より5.3ポイント少なく、平成26年度調査より1.4ポイント増加した。



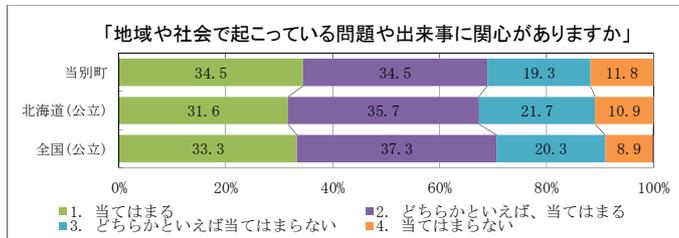
【学校生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は83.2%で、全国より1.6ポイント少ない。《新規》

## 小学校: 社会生活

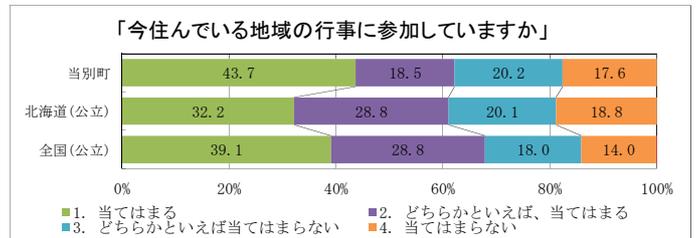
### 【特徴】

①「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」との質問に「当てはまる」と回答した児童の割合が全国を上回り、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」との質問でも「当てはまる」と回答した児童の割合が全国を上回った。一方で「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」との設問に「当てはまる」と回答した児童の割合が全国を下回った。福祉やボランティアの体験学習の場を増やし、積極的に参加できる機会づくりが必要である。

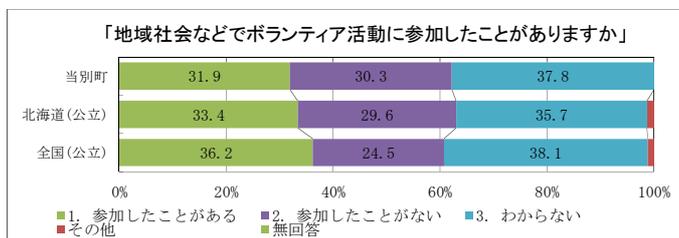
②「新聞を読んでいますか」との質問で「ほとんど読まない」、または、「全く読まない」と回答した児童の割合が全国と比べて少ない。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)」との質問に「よく見る」と回答した児童の割合が少ないことから、世間の情報収集に関してデジタル媒体よりも紙媒体の利用率が高い傾向がみられる。



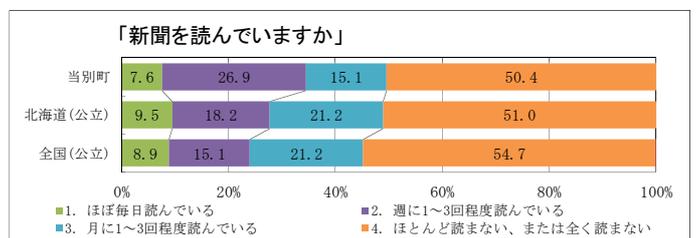
【社会生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は69.0%で、全国より1.6ポイント少なく、昨年度より2.1ポイント増加した。



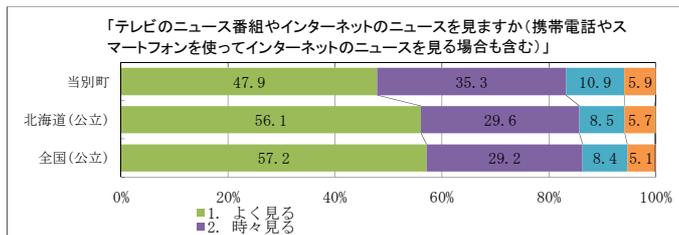
【社会生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は62.2%で、全国より5.7ポイント少なく、昨年度より8.7ポイント減少した。



【社会生活】「参加したことがある」と答えた児童の割合は31.9%で、全国より4.3ポイント少ない。【新規】



【社会生活】「ほぼ毎日読んでいる」「週に1〜3回程度読んでいる」と答えた児童の割合は34.5%で、全国より10.5ポイント多く、昨年度より0.2ポイント減少した。



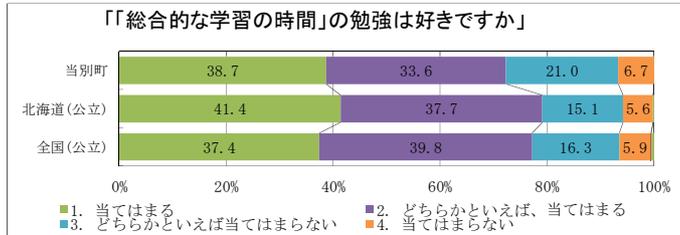
【社会生活】「よく見る」「時々見る」と答えた児童の割合は83.2%で、全国より3.2ポイント少なく、昨年度より1.5ポイント減少した。

## 小学校:総合的な学習の時間、道徳、学習

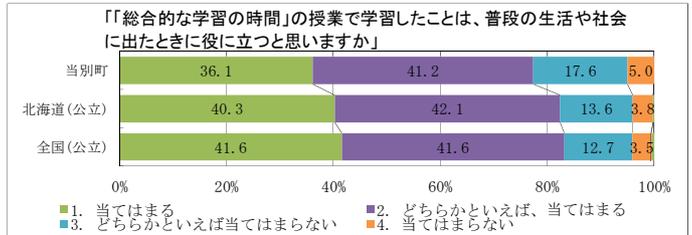
### 【特徴】

①「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」との質問に「当てはまる」と回答した児童の割合が全国を大幅に上回り、肯定的な回答をした児童の割合も全国、昨年度に比べて増加している。創意工夫を生かした特色ある授業実施の成果と、意欲的に取り組んでいる児童の姿勢がみられる。総合的な学習の時間は、アクティブ・ラーニングの視点に立った深い学びを習得するための基礎になるものであり、引き続き伸ばしていけるよう、適切に指導していく必要がある。

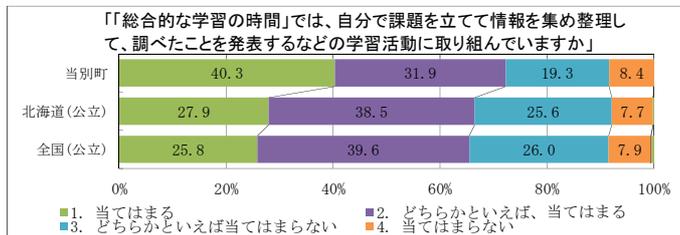
②「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」と「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より上回り、昨年度よりも増加している。自分の考えを文章化することに苦手意識を感じている児童が多いことが窺える。協同的に学び合い、要点をまとめて文章化することを習熟させる工夫改善が必要である。



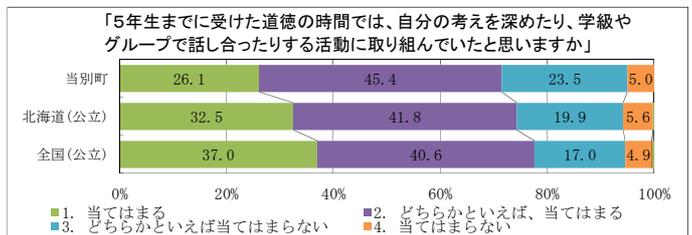
【総合学習】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は72.3%で、全国より4.9ポイント少ない。《新規》



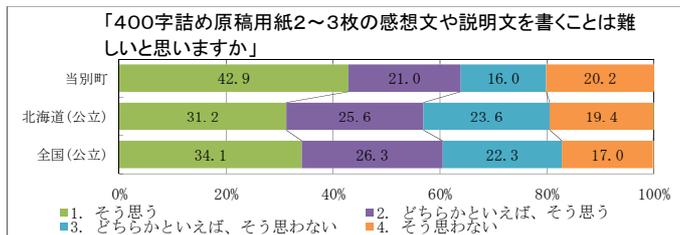
【総合学習】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は77.3%で、全国より5.9ポイント少なく、昨年度より7.4ポイント減少した。



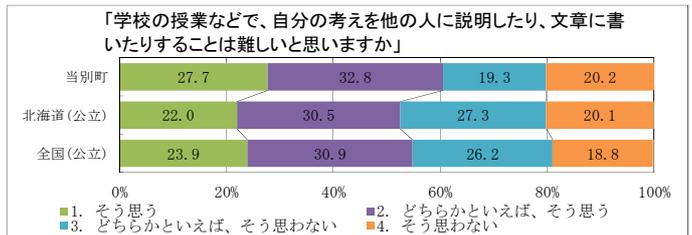
【総合学習】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は72.2%で、全国より6.8ポイント多く、昨年度より6.1ポイント増加した。



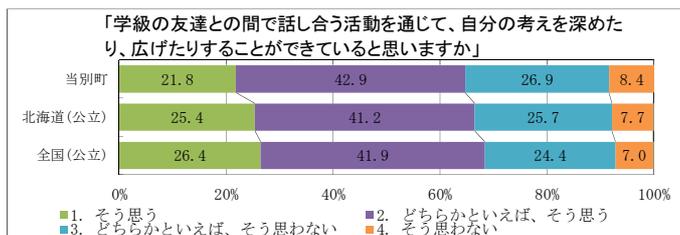
【道徳】「取り組んだ」「どちらかといえば、取り組んだ」と答えた児童の割合は71.5%で、全国より6.1ポイント少ない。《新規》



【学習】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は63.9%で、全国より3.5ポイント多く、昨年度より7.4ポイント増加した。



【学習】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は60.5%で、全国より5.7ポイント多く、昨年度より6.4ポイント増加した。



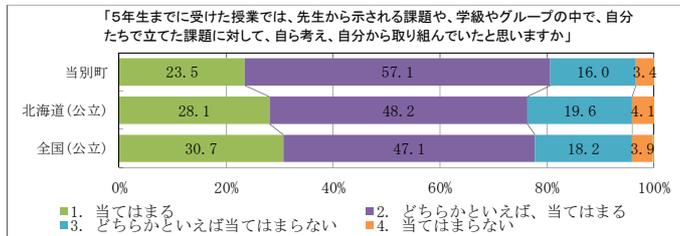
【学習】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合は64.7%で、全国より3.6ポイント少なく、昨年度より3ポイント減少した。

## 小学校:授業

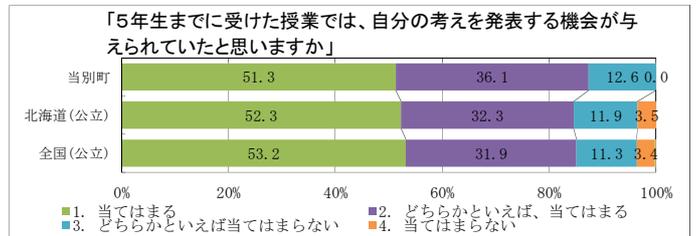
### 【特徴】

①「5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」、「5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」、「5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童の割合が全国、昨年度に比べて下回ったが、学校質問紙調査の「よく行った」との回答と乖離している。教職員と児童の意識差の改善を図り、授業改善の取り組みを進めなど、基本的な学習過程を実施していく必要がある。

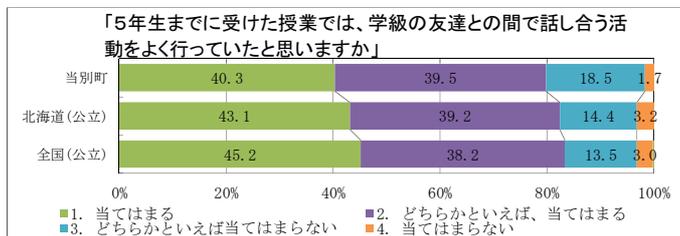
②「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」の質問に「友達に尋ねる」との回答が全国と同様に1番多く、「その場で先生に尋ねる」との回答が2番目に多く、全国を大きく上回った。授業への積極的な取り組みの様子が窺える。



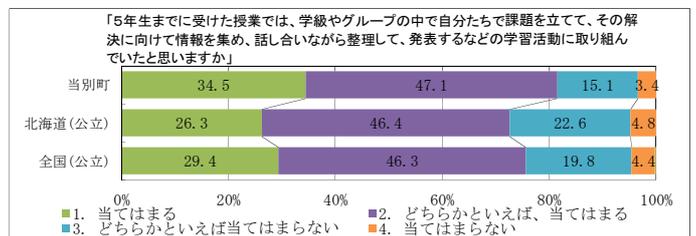
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は80.6%で、全国より2.8ポイント多い。《新規》



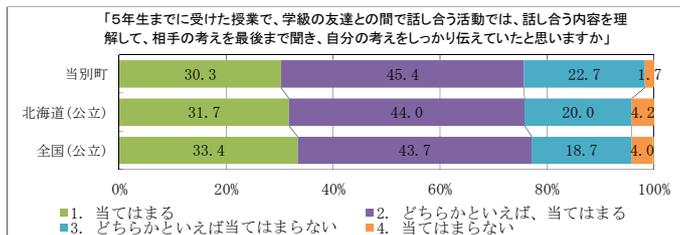
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は87.4%で、全国より2.3ポイント多く、昨年度より0.3ポイント増加した。



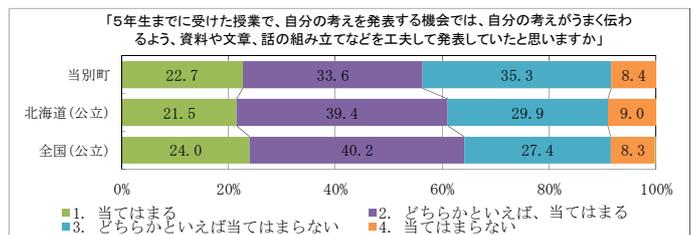
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は79.8%で、全国より3.6ポイント少なく、昨年度より10.5ポイント減少した。



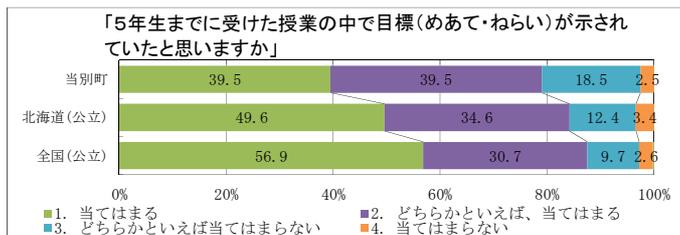
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は81.6%で、全国より5.9ポイント多く、昨年度より6.6ポイント増加した。



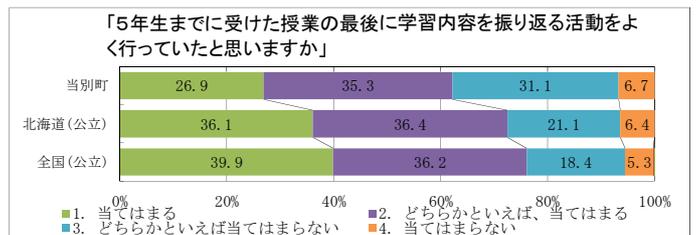
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は75.7%で、全国より1.4ポイント少ない。《新規》



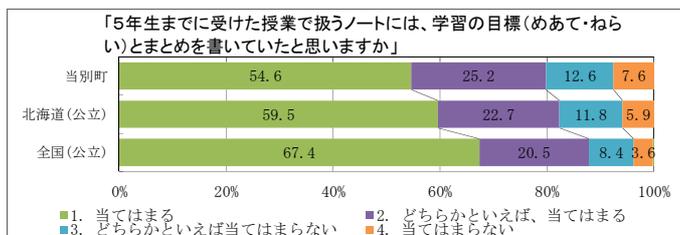
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は56.3%で、全国より7.9ポイント少ない。《新規》



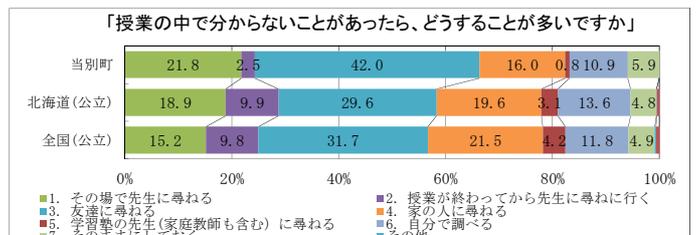
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は79.0%で、全国より8.6ポイント少なく、昨年度より6.5ポイント減少した。



【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は62.2%で、全国より13.9ポイント少なく、昨年度より9.6ポイント減少した。



【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は79.8%で、全国より8.1ポイント少なく、昨年度より7.3ポイント減少した。



【授業】友人に尋ねるが42.0%で一番多く、次に「その場で先生に尋ねる」が17.3%になった。昨年度は「その場で先生に尋ねる」が一番多く、尋ねる相手が「先生」から「友人」へ移行している。「そのままにしておく」が全国より1.0ポイント多い。

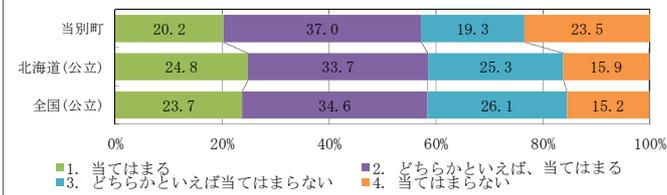
## 小学校：国語の学習

### 【特徴】

①国語の学習に関する多くの質問に、肯定的な回答をした児童の割合は全国平均を下回り、昨年度の結果よりも減少しているが、「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」と質問では、肯定的な回答をした児童の割合が全国、昨年度を上回り、自分の考えの論拠や理由を意識して、文章化している姿勢が窺える。

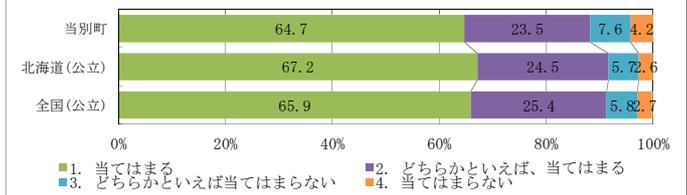
②「読書が好き」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均を下回り、昨年度よりも下回った。「当別町子ども読書活動推進計画」を基に巡回の図書館司書と連携した読書活動を推進する必要がある。

### 「国語の勉強は好きですか」



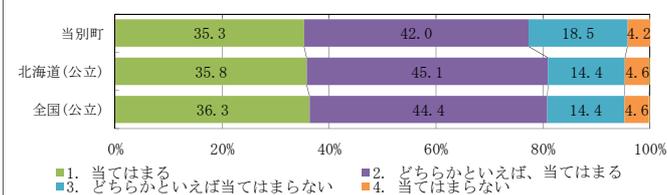
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は57.2%で、全国より1.1ポイント少なく、昨年度より9.7ポイント減少した。

### 「国語の勉強は大切だと思いますか」



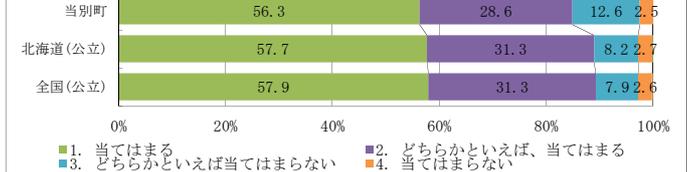
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は88.2%で、全国より3.1ポイント少なく、昨年度より4.5ポイント減少した。

### 「国語の授業の内容はよく分かる」



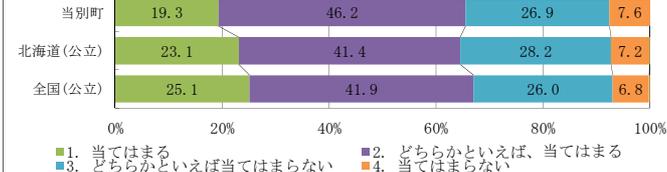
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は77.3%で、全国より3.4ポイント少なく、昨年度より8.2ポイント減少した。

### 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」



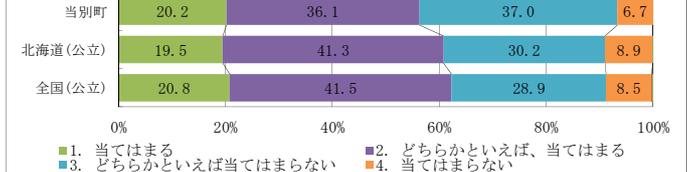
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は84.9%で、全国より4.3ポイント少なく、昨年度より2.2ポイント減少した。

### 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」



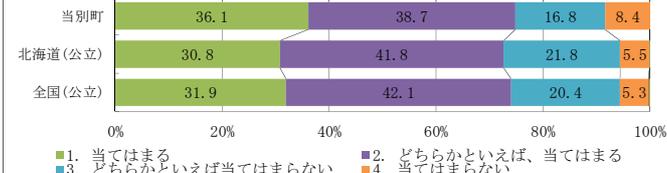
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は65.5%で、全国より1.5ポイント少なく、昨年度より4.2ポイント増加した。

### 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか」



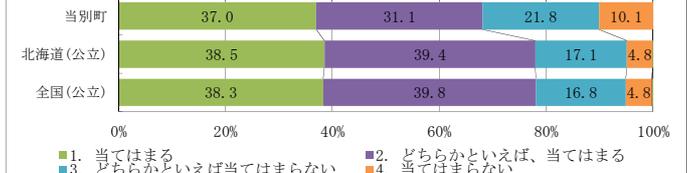
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は56.3%で、全国より6ポイント少なく、昨年度より9.8ポイント減少した。

### 「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」



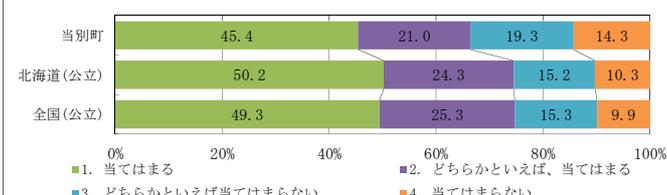
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は74.8%で、全国より0.8ポイント多く、昨年度より0.2ポイント増加した。

### 「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか」



【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は68.1%で、全国より10ポイント少なく、昨年度より13.3ポイント減少した。

### 「読書は好きですか」



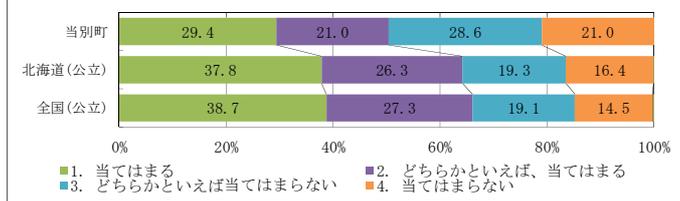
【国語】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は66.4%で、全国より8.2ポイント少なく、昨年度より4.5ポイント減少した。

## 小学校：算数の学習

### 【特徴】

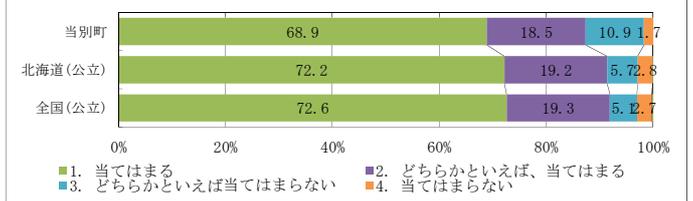
①「算数の勉強は好きですか」をはじめ、多くの質問に肯定的な回答をした児童の割合が全国、昨年度を下回っている。各学校において、原因を究明し、「算数の勉強は好き」と思う児童が育つよう、また、「算数は面白い」と感じさせる授業の工夫改善など、取り組みを実施する必要がある。

#### 「算数の勉強は好きですか」



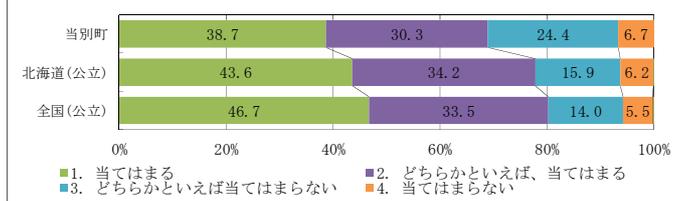
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は50.4%で、全国より15.6ポイント少なく、昨年度より16.5ポイント減少した。

#### 「算数の勉強は大切だと思いますか」



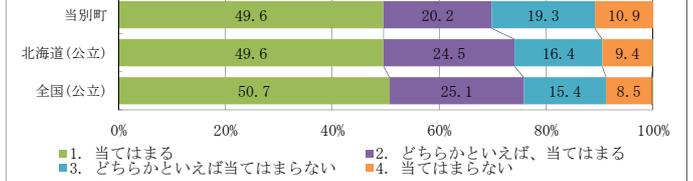
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は87.4%で、全国より4.5ポイント少なく、昨年度より6.9ポイント減少した。

#### 「算数の授業の内容はよく分かりますか」



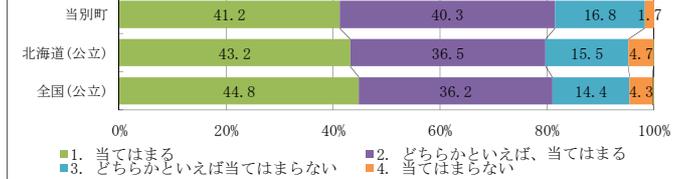
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は69%で、全国より11.2ポイント少なく、昨年度より9.3ポイント減少した。

#### 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いませんか」



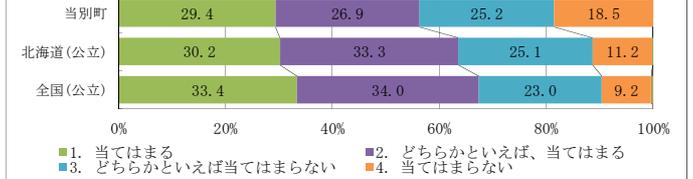
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は69.8%で、全国より6ポイント少なく、昨年度より12.4ポイント減少した。

#### 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」



【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は81.5%で、全国より0.5ポイント多く、昨年度より2.5ポイント増加した。

#### 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」



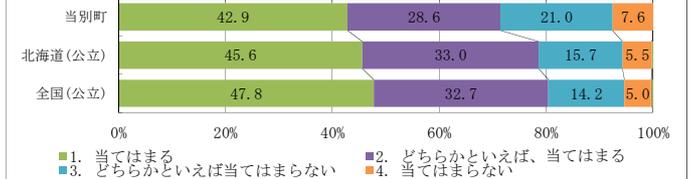
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は56.3%で、全国より11.1ポイント少なく、昨年度より14.6ポイント減少した。

#### 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」



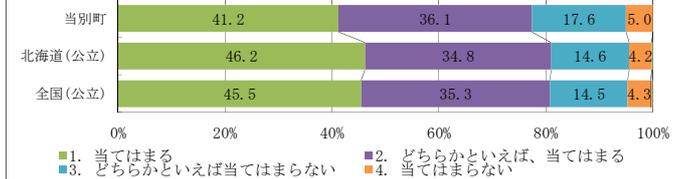
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は89.1%で、全国より0.8ポイント少なく、昨年度より3.7ポイント増加した。

#### 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」



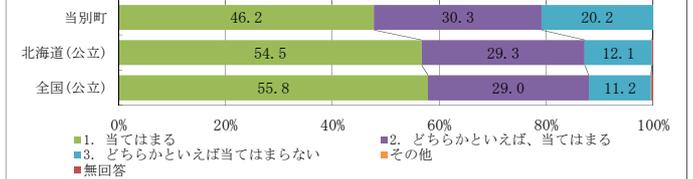
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は71.5%で、全国より9ポイント少なく、昨年度より6ポイント減少した。

#### 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」



【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は77.3%で、全国より3.5ポイント少なく、昨年度より4.9ポイント減少した。

#### 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」



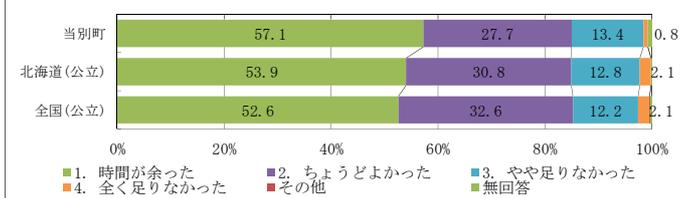
【算数】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は76.5%で、全国より8.3ポイント少なく、昨年度より9.8ポイント減少した。

## 小学校:調査時間

### 【特徴】

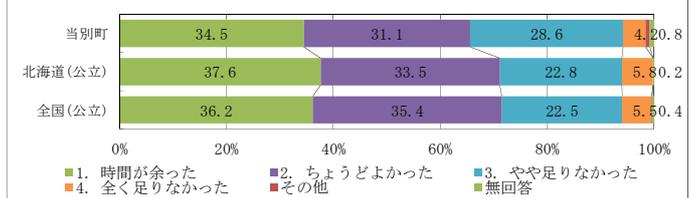
- ①国語A・算数Aでは、8割以上の児童が「時間が余った」、「ちょうどよかった」と回答しているが、国語B・算数Bでは、解答を文章で書いたり、記述式の解答を求める問題で、全国・北海道と同様に苦労した様子が窺える。
- ②「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合は、国語では、全国を上回っているものの、算数では、全国を下回った。普段から授業の中で、「別な解決の方法がないか」など多様な考え方を持つよう、指導をしていくことが大切である。

「調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)」



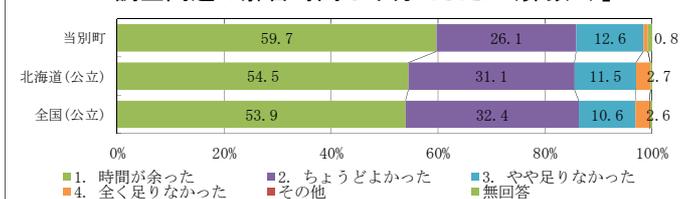
【調査時間】《国語A》「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は84.8%で全国より0.4ポイント少なく、昨年度より5.8ポイント増加した。

「調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)」



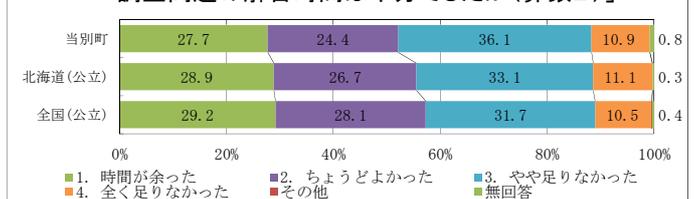
【調査時間】《国語B》「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は65.6%で全国より6ポイント少なく、昨年度より5.4ポイント減少した。

「調査問題の解答時間は十分でしたか(算数A)」



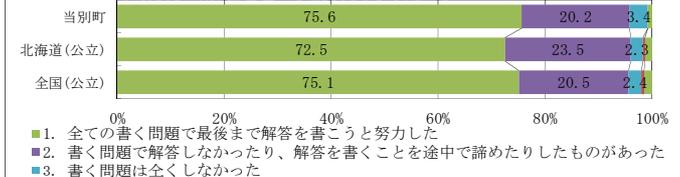
【調査時間】《算数A》「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は85.8%で全国より0.5ポイント少なく、昨年度より2.8ポイント増加した。

「調査問題の解答時間は十分でしたか(算数B)」



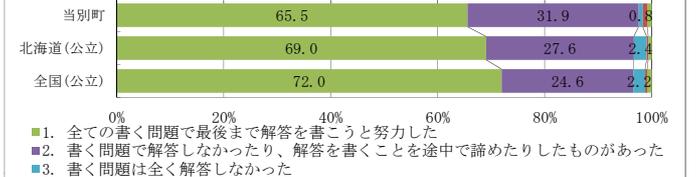
【調査時間】《算数B》「時間があまった」「ちょうどよかった」と答えた児童の割合は52.1%で、全国より5.2ポイント少なく、昨年度より12.4ポイント減少した。

「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか」



【国語】「最後まで解答を書こうと努力した」と答えた児童の割合は75.6%で全国より0.5ポイント多く、昨年度より4.6ポイント増加した。

「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか」



【算数】「最後まで解答を書こうと努力した」と答えた児童の割合は65.5%で、全国より6.5ポイント少なく、昨年度より1ポイント増加した。

## IV 中学校の分析

### 1) 学力調査

#### 1 教科ごとの結果概要

##### 【国語】

- ① 平均正答率・正答数ともに全国との差はわずかであった。特に国語Aでは、ほとんど差がない。
- ② 領域別では、国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国平均を上回ったが、他の3領域では、下回る結果となった。出題の趣旨から「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」という設問で無回答率が多く、チャレンジテストや本学習調査問題の活用を進める必要がある。
- ③ 国語A・Bともに「読むこと」の領域で小学校同様に落ち込みがあり、読解力を身につける指導が必要である。

##### 【数学】

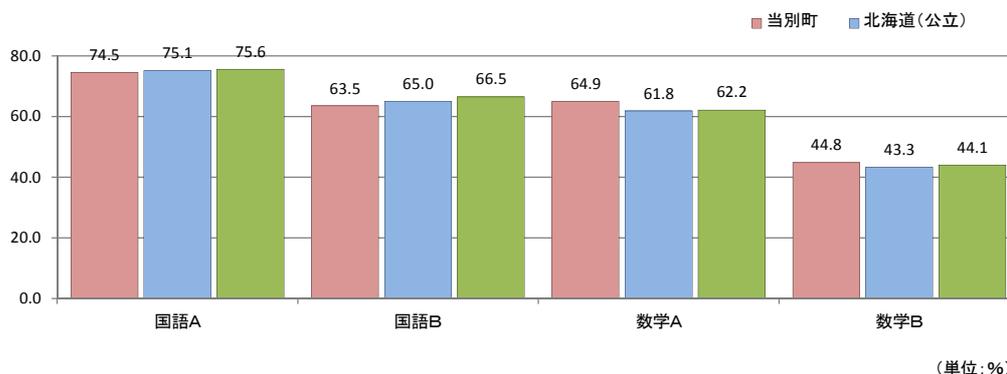
- ① 数学A・Bの平均正答率・正答数ともに全国を上回った。特に数学Aの正答数で全国と比較すると1問以上多く回答している。
- ② 領域別では、数学Aで4領域すべてで全国平均を上回る結果になった。数学Bでは、「資料の活用」を除く領域で全国を上回っている。
- ③ 下位層の割合は、数学A・Bで全国より少なく、昨年度からも大きく減少し、全体をとおして、指導方法の工夫、授業改善の取り組みの成果がみられる。

#### 2 教科ごとの平均正答率と平均正答数

	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数						
当別町	74.5	(24.6/33)	63.5	(5.7/9)	64.9	(23.4/36)	44.8	(6.7/15)
北海道(公立)	75.1	(24.8/33)	65.0	(5.8/9)	61.8	(22.2/36)	43.3	(6.5/15)
全国(公立)	75.6	(25.0/33)	66.5	(6.0/9)	62.2	(22.4/36)	44.1	(6.6/15)
全国との差	▲ 1.1	(-0.4/33)	▲ 3.0	(-0.3/9)	2.7	(+1.0/36)	0.7	(+0.1/15)
昨年度の全国との差	▲ 3.5	(-1.2/33)	▲ 3.9	(-0.3/9)	▲ 6.0	(-2.2/36)	▲ 5.4	(-0.6/15)
昨年度と差の比較	+ 2.4		+ 0.9		+ 8.7		+ 6.1	

※( )内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載。

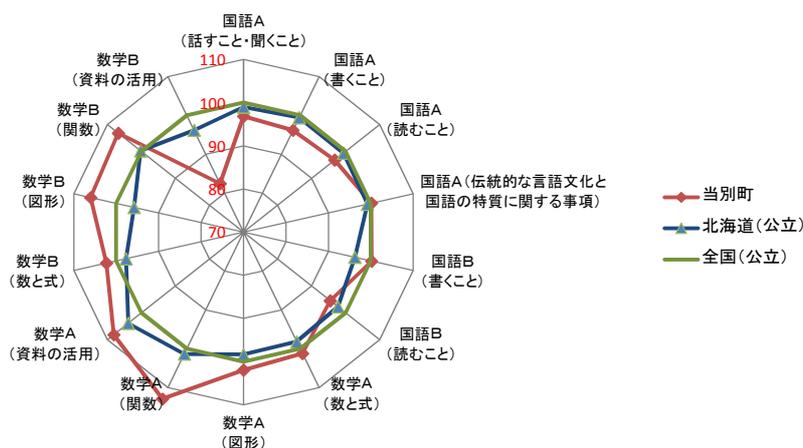
※平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語A、国語B、数学A、数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。



### 3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率

	国語A (話すこと・聞くこと)	国語A (書くこと)	国語A (読むこと)	国語A (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語B (書くこと)	国語B (読むこと)	数学A (数と式)	数学A (図形)	数学A (関数)	数学A (資料の活用)	数学B (数と式)	数学B (図形)	数学B (関数)	数学B (資料の活用)
問題数	6/33	4/33	6/33	17/33	3/9	9/9	12/36	12/36	8/36	4/36	6/36	2/15	5/15	2/15
当別町	96.8	96.2	96.8	100.1	100.2	95.5	101.2	101.9	112.9	108.1	102.3	106.0	106.8	82.4
北海道(公立)	99.0	99.5	99.4	99.2	96.2	97.7	98.2	98.4	101.3	103.9	97.7	95.8	100.2	96.2
全国(公立)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

教科の領域別に全国を100とした場合の状況をレーダーチャートで示したものを。  
(当別町生徒の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



### 4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	国語A			国語B			数学A			数学B		
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国
	29.0%	28.3%	26.5%	30.2%	27.8%	25.4%	23.0%	26.8%	25.1%	20.9%	22.9%	21.3%
	33問中22問以下			9問中4問以下			36問中16問以下			15問中3問以下		
全国との差	2.5%	多い	4.8%	多い	-2.1%	少ない	-0.4%	少ない				
昨年の全国との差	8.0%	多い	6.7%	多い	9.1%	多い	7.8%	多い				
昨年度と差の比較	-5.5%	減少	-1.9%	減少	-11.2%	減少	-8.2%	減少				



(単位: %)

### 5 教科の改善策

- 中学校でも1単位時間の流れとして、「課題設定の明示、個人解決から集団解決、まとめの明記、授業の予習・復習、問題の反復練習」は必要不可欠な授業過程であり、生徒が、「何が分かればよいのか」という目標を自覚させることが重要である。小学校からの引き継ぎを基に、実態を把握した授業展開が必要である。
- 「個性・能力の伸長を図る学習」から「自学自習を重視する」へと中学校期の学習目標を達成するために、学力の定着と能力を引き出す習熟度別学習の充実が必要である。そのために各学校で取り組んでいるノート指導や学習規律、板書の工夫、習熟度別学習やTT指導の工夫改善、ICT活用などの授業改善を一層強化して「無解答の解消」、「基礎学力の定着・向上」に取り組む必要がある。

## 6 各教科に関する調査結果

### 中学校 [国語A：主として知識] ①

- 国語Aの学力調査では、当別町生徒の平均正答率が74.5%で、全国の75.6%より1.1ポイント下回った。昨年度は、3.5ポイント下回ったので、2.4ポイント縮まった。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国を上回った。
- 出題の趣旨から「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」の問題で無回答率が13.7%で全国より多い結果となった。

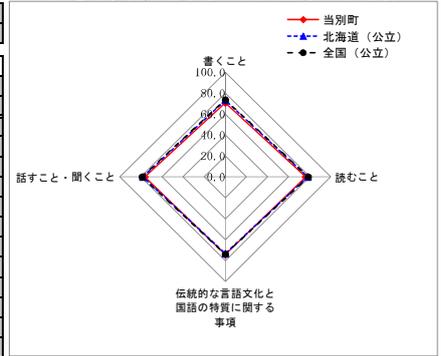
#### 集計結果

対象生徒数		当別町教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)
		153	41,221	996,188

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			当別町	北海道(公立)	全国(公立)
	全体	33	74.5	75.1	75.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	6	76.4	78.1	78.9
	書くこと	4	70.9	73.3	73.7
	読むこと	6	76.1	78.1	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	<b>74.0</b>	73.3	73.9
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	6	76.4	78.1	78.9
	書く能力	4	70.9	73.3	73.7
	読む能力	6	76.1	78.1	78.6
	言語についての知識・理解・技能	17	<b>74.0</b>	73.3	73.9
問題形式	選択式	23	71.7	73.2	73.5
	短答式	10	<b>80.7</b>	79.3	80.5
	記述式	0			

#### <学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



#### 設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町	北海道(公立)
1-1	聞き手をどのように想定して話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	聞き手の立場を想定し、話の中心的部分と付加的な部分との関係に注意して話す	2イ							○			○	77.1	78.5	80.7	0.0	0.1	0.1
1-2	絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	2ウ							○			○	74.5	77.6	78.1	0.0	0.2	0.2
2-1	パンフレットの見出しを他の見出しの書き方を参考に書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	2ウ							○			○	<b>80.4</b>	77.3	78.1	3.9	3.5	3.5
2-2	文章の一部を別の項目に移す理由として適切なものを選択する	集めた材料を整理して文章を構成する	1イ							○			○	70.6	73.8	73.2	0.7	0.2	0.3
3-1	「ライスカレーのなにに値する」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア								○	77.8	83.7	84.7	0.7	0.2	0.2
3-2	「私」にとってのライスカレーを説明したものとして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ								○	84.3	89.1	90.0	0.7	0.2	0.2
4-1	答えの文章を直した意図として適切なものを選択する	文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く	2エ							○			○	58.8	65.0	64.7	0.7	0.4	0.6
4-2	質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	1ウ							○			○	73.9	77.2	78.7	<b>(13.7)</b>	9.5	8.7
5-1	電話を受けた相手のことを考えた言葉を書く	相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す	1ウ							○			○	<b>83.5</b>	92.8	93.1	<b>(5.2)</b>	4.2	3.7
5-2	伝えたいことを明確にするために付け加える言葉として適切なものを選択する	全体と部分との関係に注意して話を構成する	1イ							○			○	<b>87.6</b>	87.5	88.7	0.7	0.2	0.3
6-1	「不思議な機能」の説明として適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1イ								○	<b>85.0</b>	80.5	81.3	0.7	0.3	0.4
6-2	文章について説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や展開について自分の考えをもつ			1エ								○	62.1	65.7	67.3	0.7	0.4	0.6
7-1	相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものとして適切なものを選択する	話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する	2エ							○			○	68.6	71.5	70.6	0.7	0.4	0.5
7-2	話し合いを踏まえた発言として適切なものを選択する	互いの発言を検討して自分の考えを広げる	2オ							○			○	56.9	60.9	62.0	0.7	0.5	0.6
8-1	奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択する	奥付の特徴や役割を理解する			1カ								○	85.0	86.0	86.1	1.3	1.1	1.3
8-2	資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する	奥付を使って本についての情報を得る			1カ								○	<b>62.7</b>	63.5	62.4	1.3	1.4	1.6
9-1	漢字を書く(大学で歴史のケンキュウをする)				2(1)ウ(イ)								○	<b>88.2</b>	82.8	83.5	3.9	6.4	5.8
9-2	漢字を書く(今までにないドクソウ的な考えだ)	文脈に即して漢字を正しく書く			2(1)ウ(イ)								○	<b>26.1</b>	25.2	26.1	<b>(9.2)</b>	10.8	11.4
9-3	漢字を書く(家の庭に花をさえる)				2(1)ウ(イ)								○	86.9	87.9	89.9	3.9	6.4	5.2
9-21	漢字を読む(封筒を開ける)				2(1)ウ(ア)								○	97.4	97.9	97.6	2.0	1.1	1.3
9-22	漢字を読む(長年の努力が報われた)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(ア)								○	<b>95.4</b>	94.7	94.8	3.3	1.9	2.0
9-23	漢字を読む(自らの人を敬う)				2(1)ウ(ア)								○	<b>81.7</b>	79.6	82.6	<b>(7.2)</b>	5.5	4.8

## 中学校 [国語A：主として知識] ②

### 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道(公立)	全国(公立)	当別町
9三ア	適切な語句を選択する(彼は、忙しい仕事の合間を縫って、私に会いに来てくれた)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			1(1) イ(ウ)					○	○		88.9	91.2	91.0	0.7	0.5	0.6
9三イ	適切な語句を選択する(厳しい挑戦だということは、もちろん分かっています)		1(1) イ(ウ)						○	○		97.4	97.9	97.9	0.7	0.5	0.5	
9三ウ	適切な語句を選択する(弟子を手塩にかけて育てる)		1(1) イ(ウ)						○	○		54.9	58.3	59.3	1.3	1.0	1.1	
9三エ	適切な敬語を選択する(私がプリントを集めて、先生にお届けします)		2(1) ア(ア)						○	○		92.8	93.6	94.3	0.7	0.6	0.6	
9三オ	適切な語句を選択する(会長候補として、白羽の矢が立つ)		1(1) イ(ウ)						○	○		63.4	53.9	54.0	1.3	0.7	0.8	
9四ア	漢和辞典の「意味」の中から、「賛美」の「美」の意味として適切なものを選択する	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える			1(1) イ(イ)					○	○		68.0	62.7	60.3	2.0	1.0	1.0
9四イ	漢和辞典の「意味」の中から、「優美」の「美」の意味として適切なものを選択する		1(1) イ(イ)						○	○		56.9	64.2	62.8	2.0	1.1	1.0	
9五	文章を書き直した意図として適切なものを選択する	文の成分の照応について理解する			2(1) イ(ウ)					○	○		47.7	49.8	50.8	2.0	1.3	1.3
9六	題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する	文字の形や大きさ、配列に注意して書く			1(2) ア					○	○		33.3	34.8	36.4	2.6	1.3	1.2
9七1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(追ひし)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む			1(1) ア(ア)					○	○		83.7	77.5	80.2	3.3	5.0	4.4
9七2	「忘れがたき」の意味として適切なものを選択する	歌に表れた作者の思いを想像する			2(1) ア(イ)					○	○		95.4	94.3	94.9	0.7	1.9	1.7

※当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの  
 ※当別町の斜体は、平均正答率が全道以上のもの  
 ※無回答率の( )書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	11/33問
平均正答率が全道以上の設問数	12/33問
無回答率が5%以上の設問数	4/33問

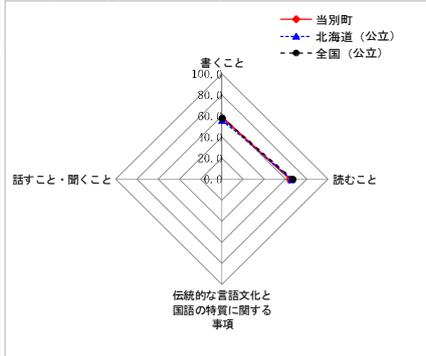
# 中学校 [国語B：主として活用]

○国語Bの学力調査では、当別町生徒の平均正答率が63.5%で、全国平均の66.5%より3.0ポイント下回った。昨年度の全国と当別町の差が-6.8ポイントで、3.8ポイント縮まった。  
 ○指導要領の「書くこと」の領域が全国と同等であったが、「読むこと」の領域が下回り、本年度の小学校調査と同様に「読むこと」の領域で、課題が見受けられる。

## 集計結果

対象生徒数		当別町教育委員会	北海道（公立）	全国（公立）	
		153	41,231	996,365	
分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）		
			当別町	北海道（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域等	全体	9	63.5	65.0	66.5
	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	<b>66.4</b>	56.1	58.3
	読むこと	9	63.5	65.0	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	<b>66.4</b>	56.1	58.3
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	3	<b>66.4</b>	56.1	58.3
	読む能力	9	63.5	65.0	66.5
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	5	66.5	69.3	70.6
	短答式	1	64.1	69.8	71.1
	記述式	3	<b>66.4</b>	56.1	58.3

## <学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



## 設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（%）			無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道（公立）	全国（公立）	当別町	北海道（公立）
1-1	ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える			1イ				○		○		68.0	75.4	76.2	0.0	0.1	0.2	
1-2	関連イベントの「～職人の技を見てみよう～」に参加することができる日付として適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る			1カ				○		○		81.0	82.3	83.3	0.0	0.1	0.2	
1-3	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く		2ウ	2カ	○	○	○				○	<b>66.6</b>	65.7	68.0	<b>(16.7)</b>	10.4	7.8	
2-1	雑誌の記事の説明として適切なものを選択する	文章の構成を捉える			1エ				○		○		<b>66.4</b>	64.3	64.9	0.7	0.2	0.2	
2-2	情報カードにまとめる内容として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する			1イ				○		○		61.4	62.4	64.0	1.3	0.2	0.3	
2-3	宇宙エレベーターについて疑問に思ったこと、それを調べるために必要な本の探し方を書く	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える		1ア	1カ	○	○	○				○	<b>51.0</b>	50.1	49.2	<b>(9.8)</b>	7.3	6.0	
3-1	物語の展開に沿って日之助の様子を並べ替える	文章の展開に即して内容を理解する			1ウ				○		○		64.1	69.8	71.1	0.7	1.2	1.2	
3-2	物語に書かれている事柄について図鑑の説明から分かることとして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る			1カ				○		○		56.9	62.1	64.7	2.0	0.6	0.8	
3-3	図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く		1ウ	1カ	○	○	○				○	<b>66.6</b>	52.5	57.7	<b>(26.5)</b>	28.5	22.8	

※当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの

※当別町の赤字は、平均正答率が全道以上のもの

※無回答率の（）書きは無回答率が5%以上のもの

平均正答率が全国以上の設問数	3/9問	
平均正答率が全道以上の設問数	4/9問	
無回答率が5%以上の設問数		3/9問

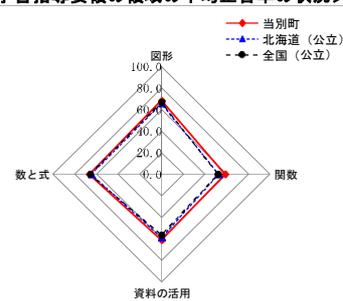
# 中学校 [数学A：主として知識] ①

○数学Aの学力調査では、当別町生徒の平均正答率が64.9%で、全国の62.2%より2.7ポイント上回った。昨年度は、6.0ポイント下回っていたので、8.7ポイント縮まり、全国を上回った。  
 ○全領域で、全国を上回っている。

## 集計結果

対象生徒数		当別町教育委員会	北海道（公立）	全国（公立）	
		153	41,236	996,502	
分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）		
			当別町	北海道（公立）	全国（公立）
全体		36	<b>64.9</b>	61.8	62.2
学習指導要領の領域	数と式	12	<b>66.7</b>	64.7	65.9
	図形	12	<b>68.4</b>	66.0	67.1
	関数	8	<b>68.7</b>	52.7	52.0
	資料の活用	4	<b>61.1</b>	58.7	56.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	19	<b>69.5</b>	66.0	66.9
問題形式	数量や図形などについての知識・理解	17	<b>69.7</b>	57.1	56.8
	選択式	13	<b>69.1</b>	58.6	57.8
	短答式	23	<b>68.1</b>	63.6	64.6
	記述式	0			

## <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



## 設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（%）			無解答率（%）				
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道（公立）	全国（公立）	当別町	北海道（公立）	全国（公立）		
1 (1)	$\frac{2}{5} \times 0.6$ を計算する	分数と小数の乗法の計算ができる	小6 (1) イ													<b>64.7</b>	62.8	66.9	<b>(7.8)</b>	5.6	5.0
1 (2)	-5, 0, 1, 2, 5, 4の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解している	1 (1) ア													39.9	40.1	40.6	0.0	0.2	0.2
1 (3)	$-3 + (-7)$ を計算する	正の数と負の数の加法の計算ができる	1 (1) ウ													<b>91.5</b>	90.3	91.6	0.0	0.8	0.7
1 (4)	今日の水位が1週間前の水位からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1 (1) ア													<b>71.2</b>	68.9	69.0	0.7	0.3	0.3
2 (1)	ある数を3でわると、商がaで余りが2になるとき、ある数をaを用いた式で表す	数量の関係を文字式に表すことができる	1 (2) エ													<b>33.3</b>	30.0	32.2	<b>(13.1)</b>	14.2	12.5
2 (2)	$(2x + 5y) + 3(x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2 (1) ア													<b>88.2</b>	83.5	84.0	3.3	2.6	2.5
2 (3)	ある数aについて、不等式 $a > 5$ と表せる事柄を選ぶ	不等式の意味を読み取ることができる	1 (2) エ													75.8	76.8	78.2	0.7	0.3	0.3
2 (4)	等式 $S = ah$ をhについて解く	具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる	2 (1) ウ													64.1	64.3	67.9	<b>(14.4)</b>	10.2	8.2
3 (1)	一元一次方程式 $x + 1 = -2x$ を解く	簡単な一元一次方程式を解くことができる	1 (3) ウ													68.6	70.9	71.3	<b>(7.8)</b>	6.1	5.1
3 (2)	一元一次方程式 $2x = x + 3$ の解について、正しい記述を選ぶ	一元一次方程式の解の意味を理解している	1 (3) ア													<b>54.2</b>	46.2	47.2	1.3	0.6	0.5
3 (3)	縦と横の長さの比が5:8の長方形の看板について、縦の長さが4.5cmのときの横の長さx cmを決めるための比例式をつくる	具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	1 (3) ウ													<b>62.7</b>	54.1	52.3	<b>(19.0)</b>	17.9	15.4
3 (4)	方程式 $2x + y = x - y = 3$ から、xとyの値を求めるための連立方程式を完成させる	2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができる	2 (2) イ、ウ													86.3	88.3	89.7	<b>(9.2)</b>	6.2	5.4
4 (1)	与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ	垂線の作図の方法について理解している	1 (1) ア													30.1	34.7	30.9	2.6	0.8	0.8
4 (2)	△ABCを、直線lを軸として対称移動した図形をかく	対称移動した図形をかきことができる	1 (1) イ													<b>77.1</b>	72.6	71.8	2.0	2.1	2.0
5 (1)	三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	空間における直線と直線との位置関係(辺と辺がねじれの位置にあること)を理解している	1 (2) ア													<b>85.0</b>	68.5	75.5	1.3	3.3	2.6
5 (2)	四角形をその面に垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を書く	四角形をその面に垂直な方向に平行に動かすと、四角柱が構成されることを理解している	1 (2) イ													<b>72.5</b>	71.8	74.0	4.6	6.5	5.6
5 (3)	立方体の見取図を読み取り、2つの角の大きさの関係について、正しい記述を選ぶ	見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることができる	1 (2) イ													75.2	77.0	78.8	1.3	0.6	0.6
5 (4)	円柱の体積が600cm <sup>3</sup> のとき、その円柱と底面の円が合同で高さの等しい円錐の体積を求める	円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の1/3であることを理解している	1 (2) ウ													<b>47.1</b>	45.3	49.9	<b>(19.6)</b>	16.3	14.2
6 (1)	平行線や角の性質を用いて∠APBの大きさを求める	平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求めることができる	2 (1) ア													<b>85.0</b>	74.9	74.8	3.3	4.8	4.5
6 (2)	多角形の外角の和について、正しい記述を選ぶ	多角形の外角の和の性質を理解している	2 (1) イ													66.7	70.6	69.3	0.7	0.7	0.8



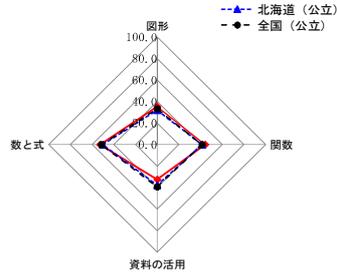
# 中学校 [数学B：主として活用]

○数学Bの学力調査では、当別町生徒の平均正答率が44.8%で、全国平均の44.1%より0.7ポイント上回った。昨年度は、5.4ポイント下回っていたので、6.1ポイント縮まった。  
 ○指導要領の領域で「数と式」「図形」「関数」の3領域で全国平均を上回った。「資料の活用」領域で全国平均との差が開き、課題がみられる。

## 集計結果

## <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

対象生徒数		当別町教育委員会	北海道（公立）	全国（公立）	
		153	41,233	996,578	
分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）		
			当別町	北海道（公立）	全国（公立）
全体		15	44.8	43.3	44.1
学習指導要領の領域	数と式	6	52.7	50.3	51.5
	図形	2	36.3	31.9	33.3
	関数	5	44.2	41.5	41.4
	資料の活用	2	32.4	37.8	39.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	11	39.9	37.8	38.9
	数学的な技能	4	58.5	58.4	58.5
	数量や図形などについての知識・理解	0			
問題形式	選択式	2	42.2	41.9	41.3
	短答式	6	58.5	57.6	57.8
	記述式	7	33.9	31.4	33.1



## 設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（%）			無解答率（%）		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	当別町	北海道（公立）	全国（公立）	当別町	北海道（公立）	全国（公立）
1 (1)	1 試合の時間を16分とすると、1回の休憩の時間を求める	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる	1 (3)ウ										81.7	79.4	79.3	1.3	1.3	1.2	
1 (2)	葉月さんの提案を取り入れたとき、1試合の時間を求めるための方程式をつくる	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができる	1 (3)ウ										35.3	32.3	33.4	(25.5)	22.2	19.3	
1 (3)	1 試合の時間を10分とすることができるかについて正しい記述を選び、その理由を式を基に説明する	適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる	1 (3)ウ										52.3	48.2	51.4	3.9	3.7	2.3	
2 (1)	一次関数の表からx=4のときのyの値を求める	条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、xの値に対応するyの値を求めることができる			2 (1)イ								67.3	64.0	59.1	(9.2)	9.0	8.7	
2 (2)	x=4のときy=9になるように、xとyの間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する	加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる			1 (1)エ								20.3	19.1	20.6	(10.5)	10.7	8.2	
3 (1)	A車を購入して10年間使用するときの総費用を求める	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、的確に処理することができる			2 (1)イ、エ								66.7	65.3	67.4	(5.2)	3.7	3.4	
3 (2)	B車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ	グラフの傾きを事象に即して解釈することができる			2 (1)イ、エ								34.0	31.6	29.8	1.3	0.6	0.7	
3 (3)	A車とB車について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2 (1)イ、エ								32.7	27.4	30.3	(16.3)	15.9	12.1	
4 (1)	2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する	筋道を立てて考え、証明することができる			2 (2)イ、ウ								37.3	29.4	29.4	(24.8)	25.7	22.3	
4 (2)	DA:DC=1:2のときの△DECがどのような三角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる			2 (2)ウ								33.3	34.5	37.3	(39.2)	34.9	30.5	
5 (1)	24.5cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1 (1)イ								41.2	46.5	47.6	(27.5)	22.3	19.3	
5 (2)	25.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数学的に表現することができる			1 (1)イ								23.5	29.2	31.1	(41.8)	36.2	33.5	
6 (1)	最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	小4 (4)										76.5	75.1	76.4	(15.0)	13.7	12.8	
6 (2)	文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てはめる方法を説明する	与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる			2 (1)イ、ウ								20.3	14.8	15.4	(42.5)	44.7	41.5	
6 (3)	当てる方法を変えるとき、新しい数当てゲームの手順について当てはまる言葉を選ぶ	計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成することができる			2 (1)ウ								50.3	52.2	52.9	3.9	4.0	4.5	

\* 評価の観点は、数量や図形に関する技能（小学校）に対応させている。

※当別町の塗りつぶしは、平均正答率が全国以上のもの

※当別町の斜線は、平均正答率が全道以上のもの

※無回答率の( )書きは無回答率が5%以上のもの

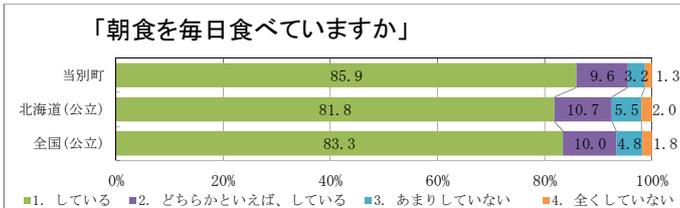
平均正答率が全国以上の設問数	9 / 16問
平均正答率が全道以上の設問数	11 / 15問
無回答率が5%以上の設問数	11 / 15問

## 2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

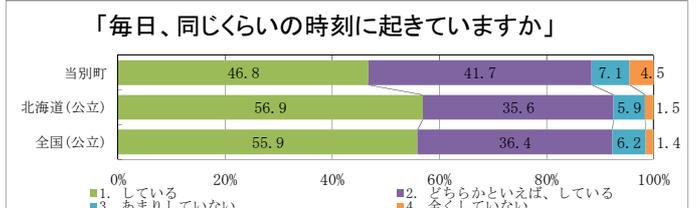
### 中学校:生活習慣

#### 【特徴】

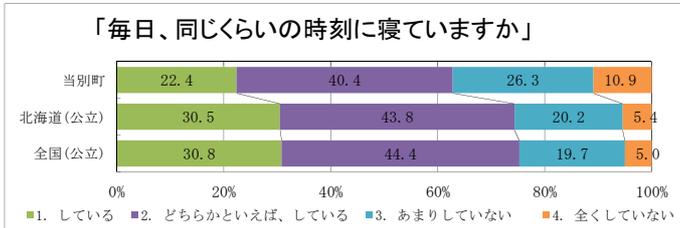
- ①「朝食を毎日食べていますか」との質問に「食べている」、「どちらかといえば食べている」と回答した生徒の割合が全国より2.2ポイント多いものの、昨年度に比べて2.4ポイント減少しているなど、就寝・起床時間や朝食摂取の基本的な生活習慣の乱れがみられる。学校、保護者が連携して、生活習慣の安定を働きかける必要がある。
- ②TV・DVDの視聴時間は、全国より少ないものの、TVやスマートフォンなどのゲームに費やす時間が全国より増加した。また、インターネットやスマートフォンの通話・メール等の利用時間が全国、昨年度よりも増加した。
- ③学校の図書室や地域の図書館へ「週に1回以上行く」割合は、全国より高く、平日に読書する割合も増加している。国語の学習の生徒質問紙調査でも「読書が好き」と回答した生徒の割合が昨年度より増加している。「当別町子どもの読書活動推進計画」に基づき、今後も読書活動を推進していくことが必要である。
- ④「家の手伝いをしていますか」との質問に「よくしている」、「時々している」と回答した生徒の割合が全国、昨年度より減少した。家族の一員としての役割分担や協力することの大切さを啓発していく必要がある。



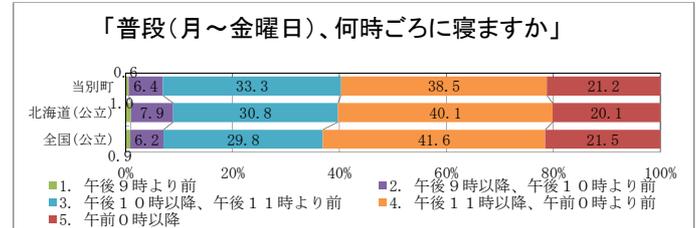
【生活習慣】「食べている」「どちらかといえば食べている」と答えた生徒の割合は95.5%で、全国より2.2ポイント多く、昨年度より2.4ポイント減少した。



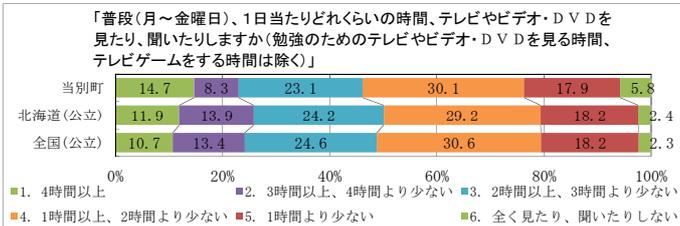
【生活習慣】「起きている」「どちらかといえば起きている」と答えた生徒の割合は88.5%で、全国より3.8ポイント少なく、昨年度より2.7ポイント減少した。



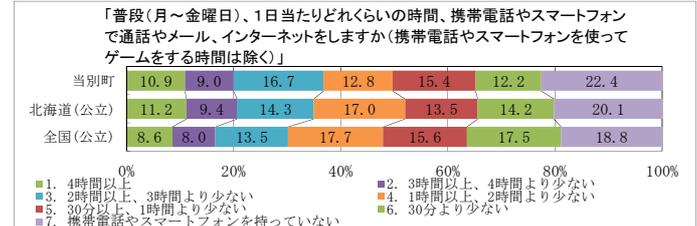
【生活習慣】「寝ている」「どちらかといえば寝ている」と答えた生徒の割合は62.8%で、全国より12.4ポイント少なく、昨年度より12.0ポイント減少した。



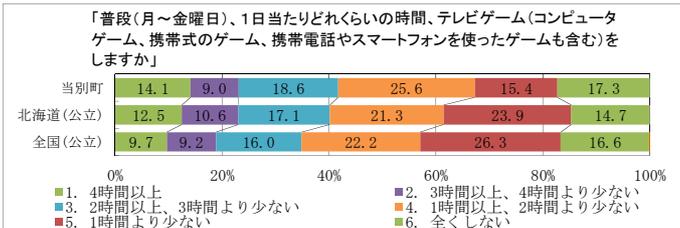
【生活習慣】「午後11時以降、午前0時前」が、38.5%と割合が多く、78.8%の生徒が午前0時前に就寝している。全国と同傾向を示している。平成25年度調査より0.1ポイント減少した。



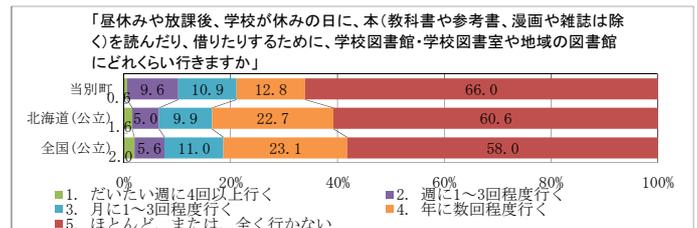
【生活習慣】「2時間以上」と答えた生徒の割合は46.1%で、全国より2.6ポイント少なく、昨年度より11.0ポイント減少した。



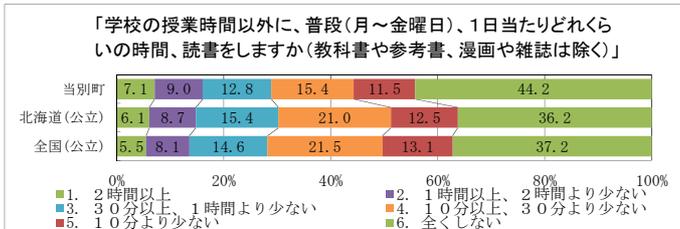
【生活習慣】「2時間以上」と答えた生徒の割合は、36.6%で、全国より6.5ポイント多く、昨年度より0.5ポイント増加した。



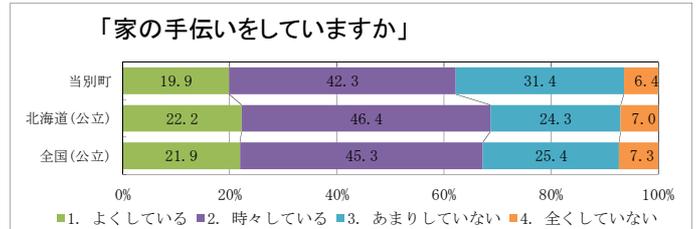
【生活習慣】「2時間以上」と答えた生徒の割合は、41.7%で、全国より6.8ポイント多く、昨年度より0.9ポイント増加した。



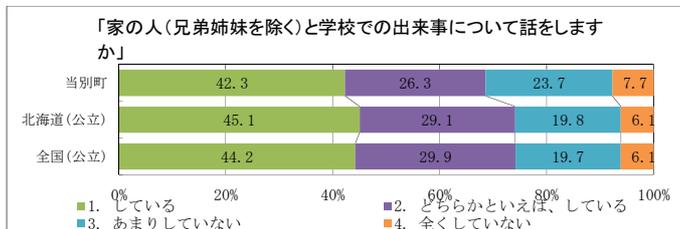
【生活習慣】「週1回以上」と、答えた生徒の割合は10.2%で全国より2.6ポイント多く、昨年度より2.0ポイント減少した。



【生活習慣】「1時間以上」と答えた生徒の割合は16.1%で、昨年度より1.1ポイント増加した。



【生活習慣】「よくしている・時々している」と答えた生徒の割合は62.2%で全国より5.0ポイント少ない。平成25年度調査より17.8ポイント減少した。



【生活習慣】「している」と答えた生徒の割合は42.3%で、全国より1.9ポイント少なく、昨年度より2.6ポイント減少した。

## 中学校:家庭学習

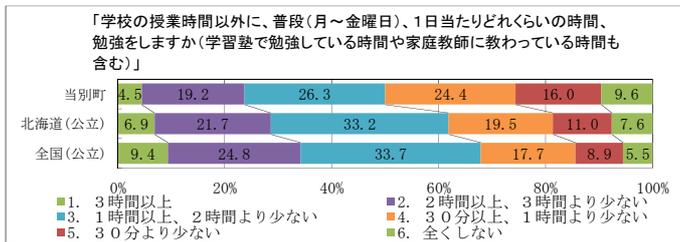
### 【特徴】

①50%の生徒が平日の家庭学習を「1時間以上」していると回答したが、全国より17.9ポイント、昨年度より2.4ポイント減少した。休日の家庭学習時間では、59.7%の生徒が「1時間以上」と回答し、全国より8.1ポイント少ないものの、昨年度より3.2ポイント増加した。ほぼ半数の生徒に家庭での学習習慣が定着していることがみとれる。平日・休日で「全くしない」と回答した生徒の割合が全国・北海道よりも多く、「1時間より少ない」と回答した半数の生徒には、家庭での学習習慣を定着させる必要がある。なお、当別町・北海道・全国ともに「1時間以上、2時間より少ない」と回答した生徒の割合が一番多くなっている。

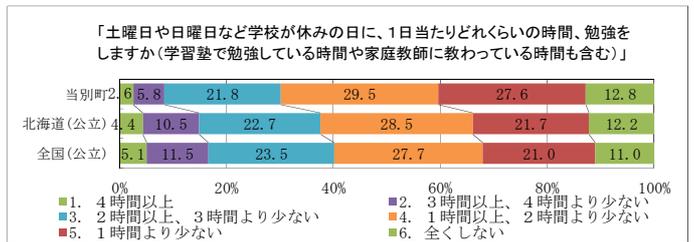
②「学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか」との質問に、約半数の生徒が「学習塾に通っていない」と回答した。そういう状況の中で、家庭学習の時間が少ないことは、大きな課題である。家庭での学習を定着させるために学校と家庭で「家庭学習を大切にする」という同じ視点に立って、連携して生徒を支えていくことが大切である。

③家庭学習の取り組みとして、「自分で計画を立てて勉強」、「学校の宿題」、「学校の授業の復習」をしていると回答した生徒の割合は昨年より多く、「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」との質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合は半数を超えた。

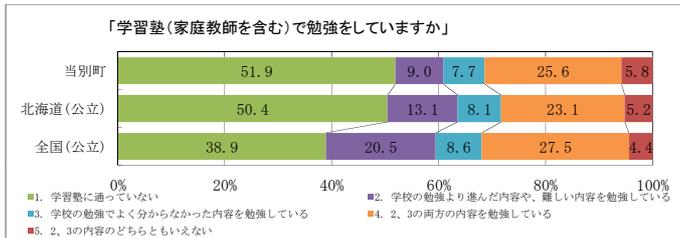
④半数の生徒が、1日1時間以上、教科書を活用し、学校の宿題や復習の学習をするなど、家庭での学習習慣が定着しているものの、残り半数の生徒は家庭での学習時間が少なく、教科書を活用していないなど、家庭での学習習慣が二極化している。家庭での学習習慣が定着するよう、家庭学習全般の指導から自己点検まで系統化した改善が必要である。



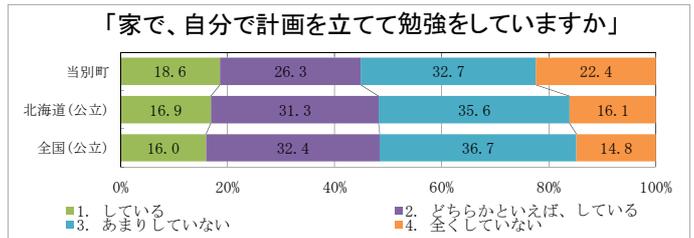
【家庭学習】「1時間以上」と、答えた生徒の割合は50.0%で、全国より17.9ポイント少なく、昨年度より2.4ポイント減少した。



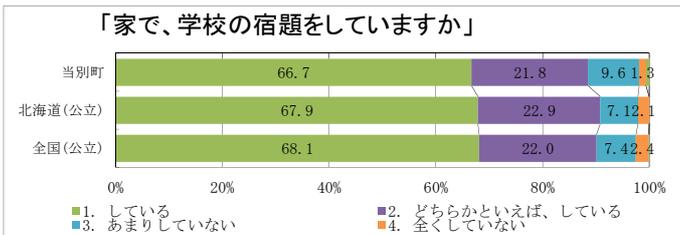
【家庭学習】「1時間以上」と、答えた生徒の割合は59.7%で、全国より8.1ポイント少なく、昨年度より3.2ポイント増加した。



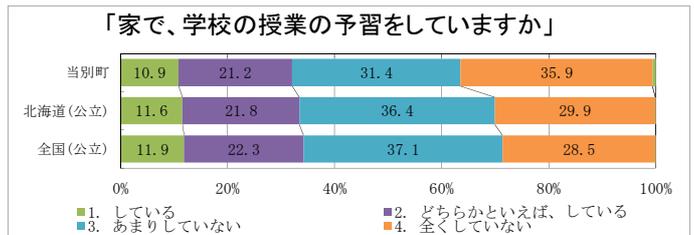
【家庭学習塾に通っていないと答えた生徒の割合が51.9%で、全国より13.0ポイント多く、昨年度からは0.9ポイント増加した。



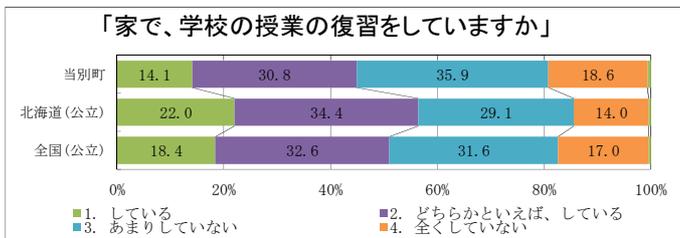
【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は44.9%で、全国より3.5ポイント少なく、昨年度より0.7ポイント増加した。



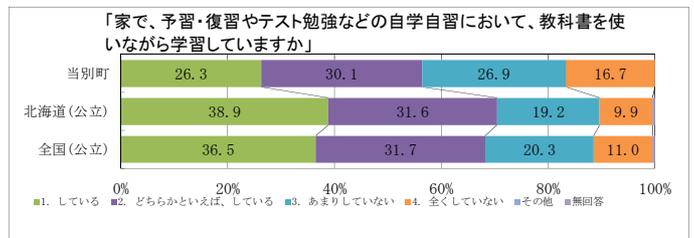
【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は88.5%で、全国より1.6ポイント少なく、昨年度より2.8ポイント増加した。



【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は32.1%で、全国より2.1ポイント少なく、昨年度より9.0ポイント増加した。



【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は44.9%で、全国より6.1ポイント少なく、昨年度より2.1ポイント減少した。

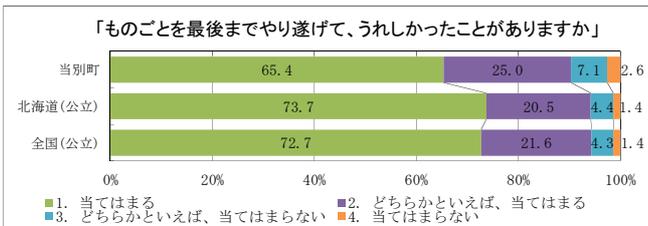


【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は56.4%で、全国より11.8ポイント少ない。《新規》

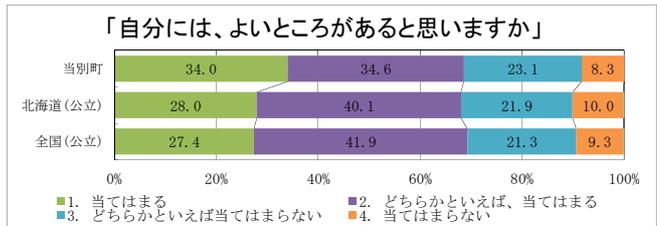
## 中学校：自己理解、自尊意識、規範意識

### 【特徴】

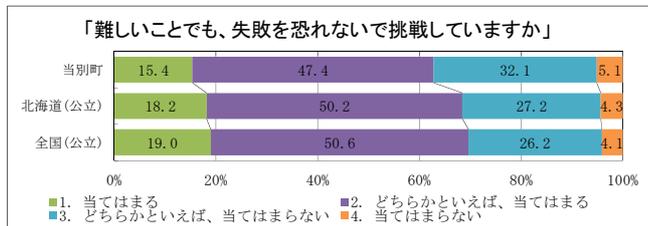
- ①「友達と話し合うとき、友達の話を最後まで聞くことができますか」との質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合は、全国より3.9ポイント少なく、昨年度よりも4.9ポイント減少した。
- ②「将来の夢や目標を持っていますか」との質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合が全国、昨年度を上回った。意欲的に取り組んでいる生徒の姿勢が窺える。
- ③「友達との約束を守っていますか」、「学校の規則を守っていますか」との質問に9割を超える生徒が「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした。
- ④「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」との質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合が全国より少ない結果となった。今後も道德教育による心の醸成が必要である。



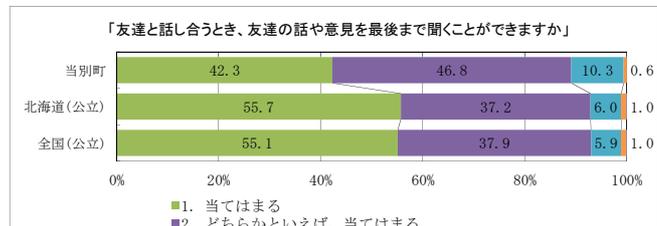
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒の割合は90.4%で、全国より3.9ポイント少なく、昨年度より5.6ポイント減少した。



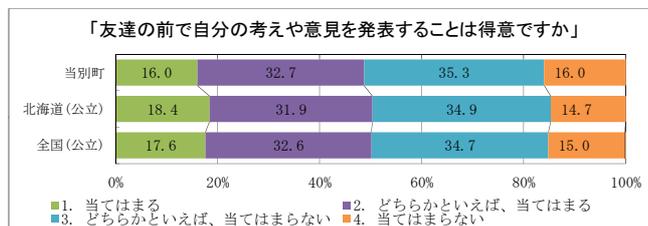
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒の割合は68.6%で、全国より0.7ポイント少なく、昨年度より4.9ポイント減少した。



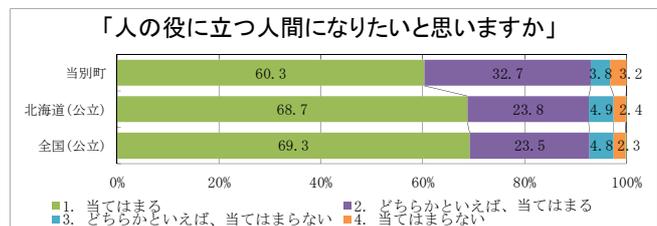
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒の割合は62.8%で、全国より6.8ポイント少なく、昨年度より8.7ポイント減少した。



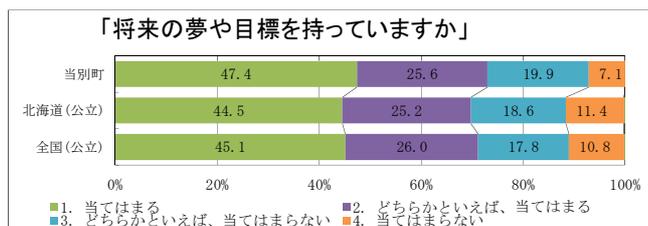
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒の割合は89.1%で、全国より3.9ポイント少なく、昨年度より1.4ポイント減少した。



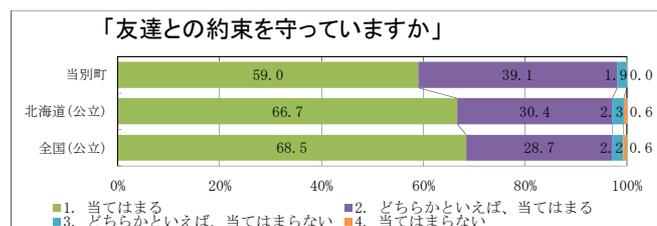
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒の割合は48.7%で、全国より1.5ポイント少なく、昨年度より12.5ポイント減少した。



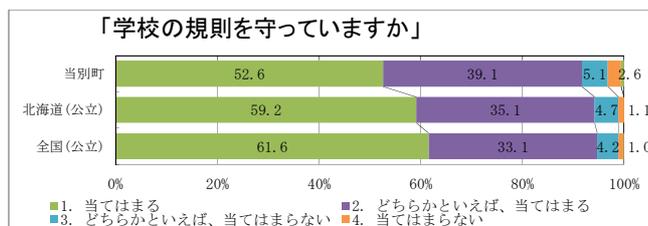
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は93.0%で、全国とはほぼ同様の数値であり、昨年度より0.9ポイント減少した。



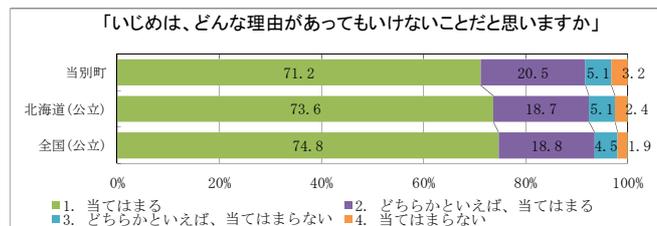
【自己理解】「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒の割合は73.0%で、全国より1.9ポイント多く、昨年度より0.3ポイント増加した。



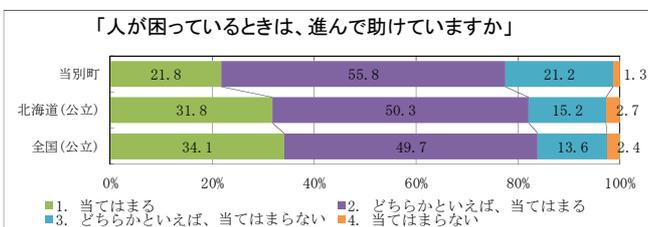
【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は98.1%で、全国より0.9ポイント多い。平成25年度調査より1.7ポイント増加した。



【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は91.7%で、全国より3.0ポイント少なく、昨年度より1.5ポイント減少した。



【自尊・規範】「当てはまる」と答えた生徒の割合は71.2%で、全国より3.6ポイント少なく、昨年度より2.9ポイント減少した。

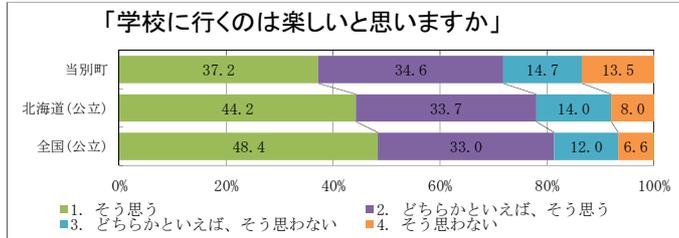


【自尊・規範】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は77.6%で、全国より6.2ポイント少ない。《新規》

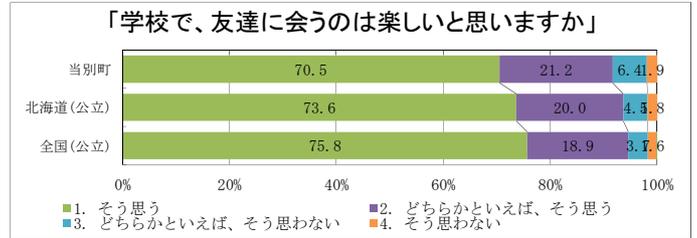
## 中学校:学校生活

### 【特徴】

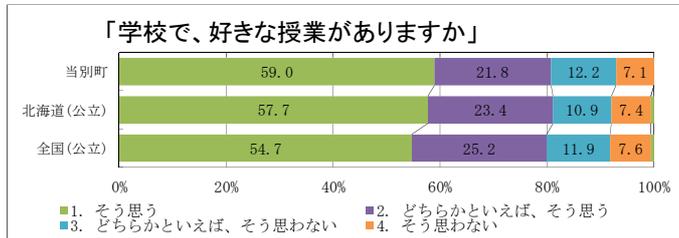
- ①「学校で、友達に会うのは楽しい」と肯定的な回答をした生徒の割合が微減している。集団でのコミュニケーションの取り方に工夫が必要と思われる。
- ②「好きな授業がある」と肯定的な回答をした生徒の割合が全国を上回り、「先生はわかるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合も全国を上回った。これからも好きな教科を増やしながらか学校生活の楽しみを見出せるよう、生徒に寄り添った指導を続けていく必要がある。
- ③「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていきますか」の質問で「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が全国を大きく下回り、お互いの考えを聞きあうことや折り合いをつけることへの苦手意識が窺える。小中一貫の重要なテーマでもあることから、話し合いのルールを指導し、話し合う場を多く設定して訓練することが大切である。



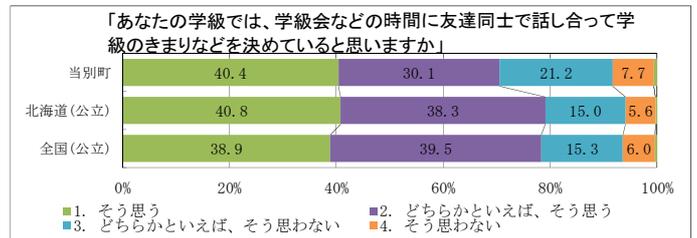
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合は71.8%で、全国より9.6ポイント少なく、昨年度より7.8ポイント減少した。



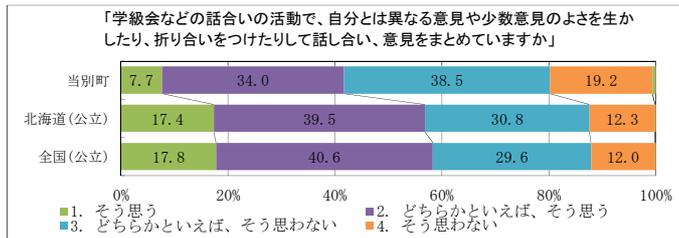
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合は91.7%で、全国より3.0ポイント少ない。平成25年度調査より0.7ポイント減少した。



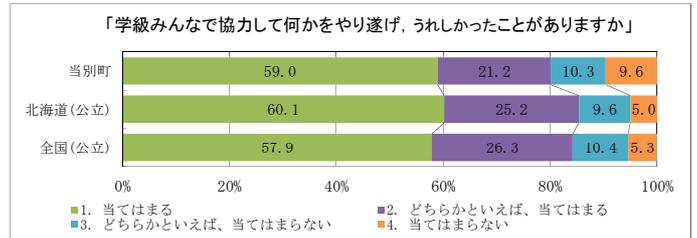
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合は80.8%で、全国より0.9ポイント多い。《新規》



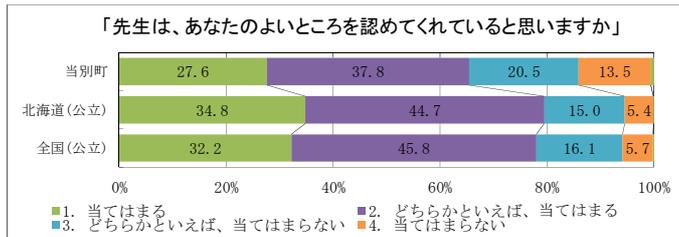
【学校生活】「そう思う」と答えた生徒の割合は40.4%で、全国より1.5ポイント多い。昨年度より4.3ポイント増加した。



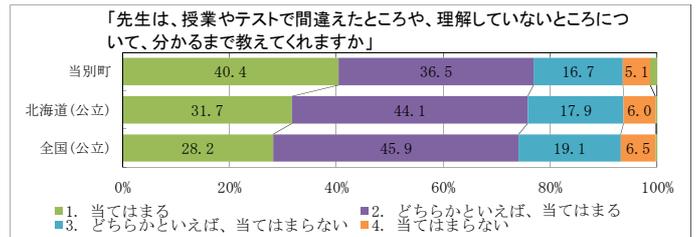
【学校生活】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合は41.7%で、全国より16.7ポイント少ない。《新規》



【学校生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は80.2%で、全国より4.0ポイント多く、昨年度より8.9ポイント減少した。



【学校生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は65.4%で、全国より12.6ポイント少ない。平成26年度調査より13.3ポイント減少した。



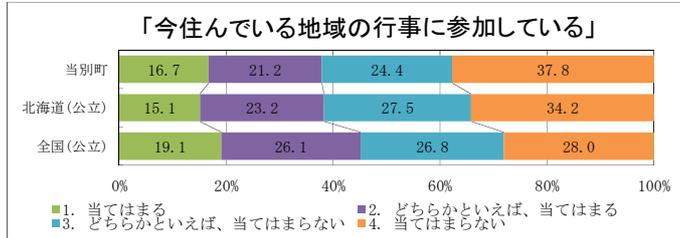
【学校生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は76.9%で、全国より2.8ポイント多い。《新規》

## 中学校: 社会生活

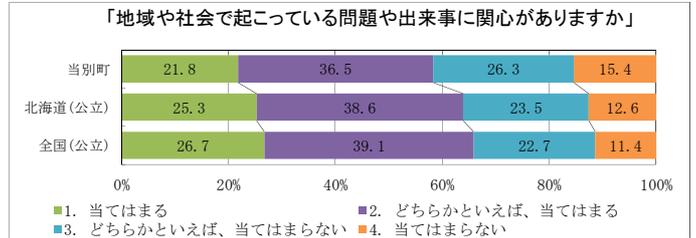
### 【特徴】

①「今住んでいる地域の行事に参加している」、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」との質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答した生徒の割合が全国より少ない結果となった。「自助」、「共助」、「公助」の考え方も含めた自主自立へ導いていくことが大切である。

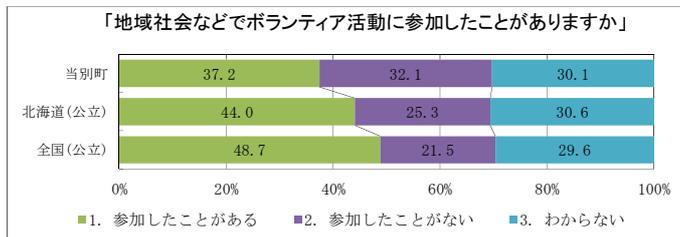
②「新聞を読んでいますか」との質問に「ほとんど、または、全く読まない」と回答した生徒の割合は、全国とともに6割を超えた。一方で、「TVのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」との質問に9割近くの生徒が「よく見る」、「時々見る」と回答した。ニュースは、TVやインターネットで見るといった傾向が全国的にも強くなっている。



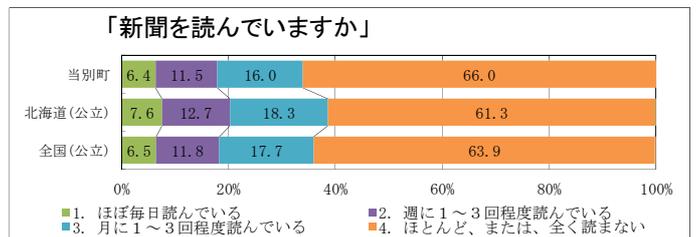
【社会生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は37.9%で、全国より7.3ポイント少なく、昨年度より11.7ポイント減少した。



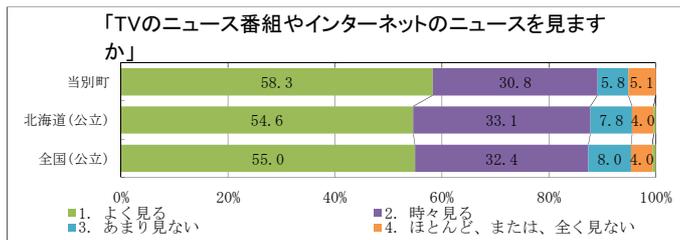
【社会生活】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は58.3%で、全国より7.5ポイント少なく、昨年度より8.6ポイント増加した。



【社会生活】「参加したことがある」と答えた生徒の割合は37.2%で、全国より11.5ポイント少ない。《新規》



【社会生活】「毎日読んでいる」「週に1~3回程度読んでいる」と答えた生徒の割合は17.9%で、全国より0.4ポイント少なく、昨年度より0.9ポイント増加した。



【社会生活】「よく見る」「時々見る」と答えた生徒の割合は89.1%で、全国より1.7ポイント多く、昨年度より10.2ポイント増加した。

## 中学校:総合的な学習の時間、道徳、学習

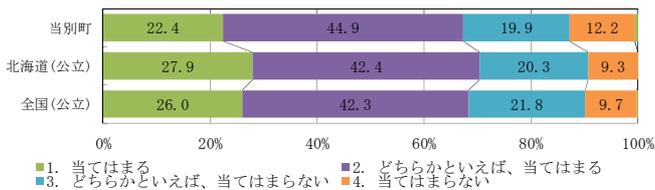
### 【特徴】

①「『総合的な学習の時間』の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が全国よりも少ない状況にある。これからの社会を生き抜くために必要な課題を自分で見つけ、情報を集めて整理し、話し合っ解決の方法を見つけるというアクティブ・ラーニングの観点からも今まさに求められている事柄であるという認識を定着させ、改善を図る必要がある。

②「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くこと」について、小学校では全国と比べて、難しいという傾向にあったが、中学校では、全国との差が縮まり、書くことへの苦手意識が改善しているとみられる。

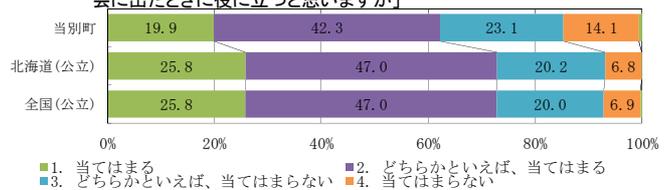
③「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答した生徒の割合が全国を大きく下回っている。共通課題を設けて、生徒同士による話し合いから理解を深めていく訓練が必要である。

#### 「『総合的な学習の時間』の勉強は好きですか」



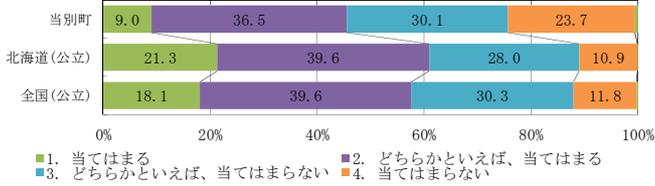
【総合学習】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は67.3%で、全国より1.0ポイント少ない。(新規)

#### 「『総合的な学習の時間』の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか」



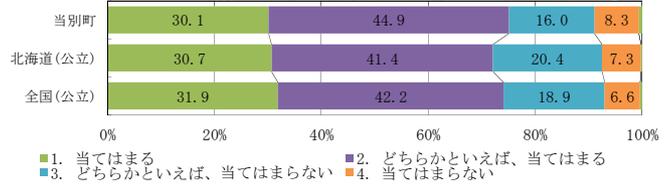
【総合学習】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は62.2%で、全国より10.6ポイント少なく、昨年度より3.8ポイント減少した。

#### 「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」



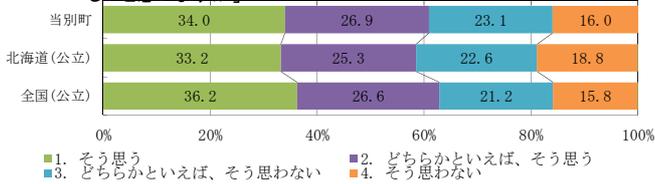
【総合学習】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は45.5%で、全国より12.2ポイント少なく、昨年度より5.4ポイント増加した。

#### 「1、2年生のときに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」



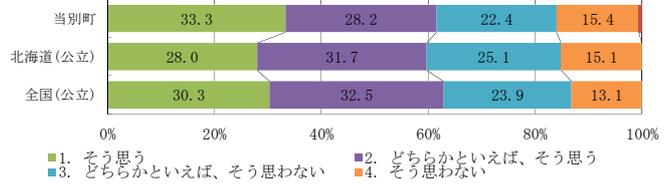
【道徳】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は75.0%で、全国より10.6ポイント多い。(新規)

#### 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」



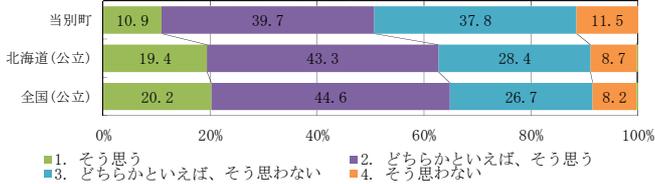
【学習】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合は60.9%で、全国より1.9ポイント少なく、昨年度より2.4ポイント減少した。

#### 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」



【学習】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合は61.5%で、全国より1.3ポイント少なく、昨年度より3.9ポイント減少した。

#### 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」



【学習】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合は50.6%で、全国より14.2ポイント少なく、昨年度より8.6ポイント減少した。

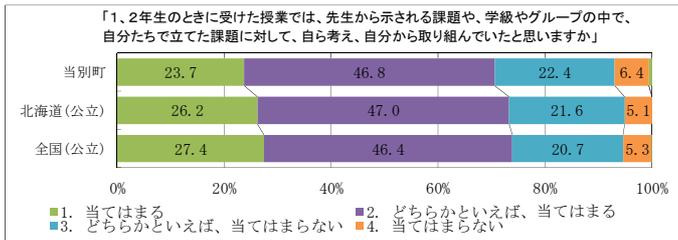
## 中学校:授業

### 【特徴】

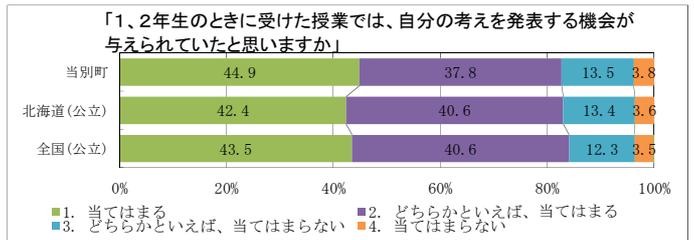
①「1、2年生のときに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」、「1、2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」、「1、2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか」との質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合が全国を上回り、授業規律や指導方法の工夫改善が進み、学力結果に反映されていることが窺える。

②「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」との質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を下回るなど、授業の中で自分の考えを工夫して発表することが苦手である傾向がみられる。生徒同士による話し合いから相手に理解してもらう訓練が必要である。

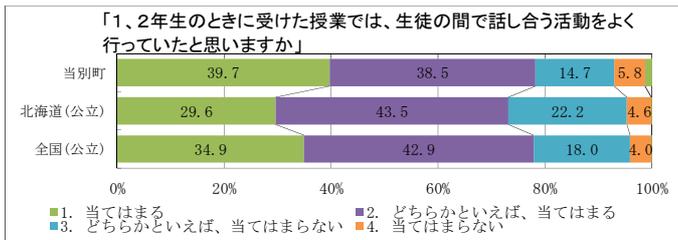
③ 授業の中で分からないことがあった場合、「友人に尋ねる」との回答の割合が一番多かったものの、「先生に尋ねる」と回答した生徒の割合が全国を上回り、さらに「そのままにしておく」と回答した生徒の割合は全国より少ない結果となった。物事へ意欲的に取り組み、学力結果に反映されていることが窺える。



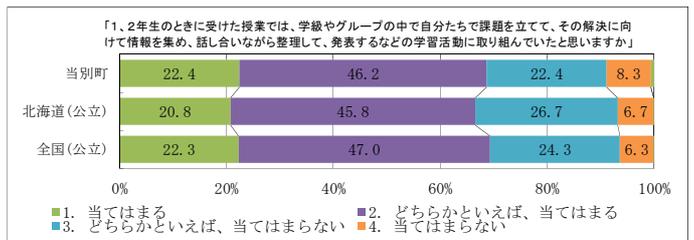
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は70.5%で、全国より3.3ポイント少ない。《新規》



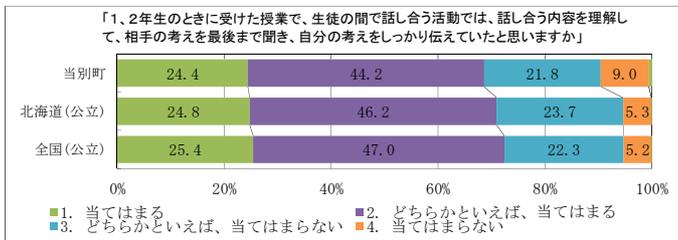
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は82.7%で、全国より1.4ポイント少なく、昨年度より1.0ポイント増加した。



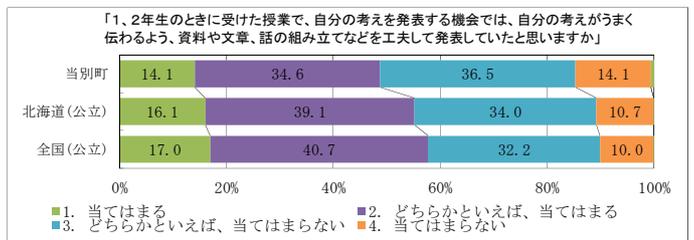
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は78.2%で、全国より0.4ポイント少なく、昨年度より8.2ポイント増加した。



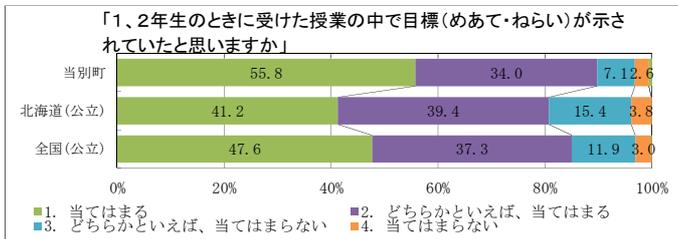
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は68.6%で、全国より0.7ポイント少なく、昨年度より12.2ポイント増加した。



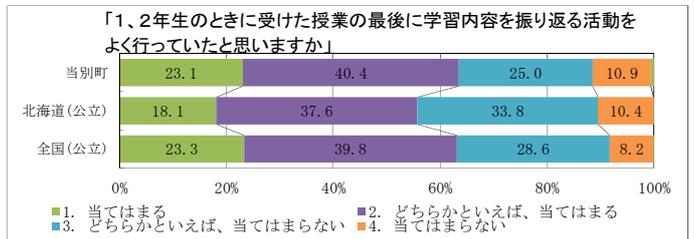
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は68.6%で、全国より3.8ポイント少ない。《新規》



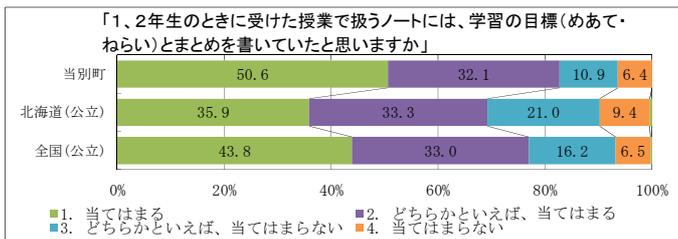
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は48.7%で、全国より9.0ポイント少ない。《新規》



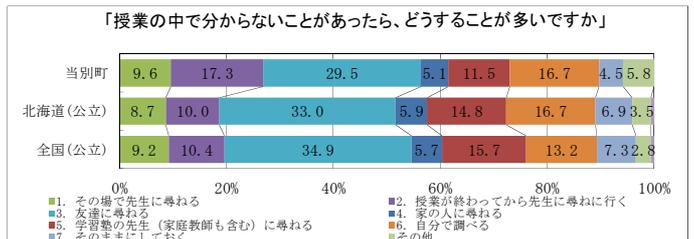
【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は89.8%で、全国より4.9ポイント多く、昨年度より12.3ポイント増加した。



【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は63.5%で、全国より0.4ポイント多く、昨年度より9.0ポイント増加した。



【授業】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は82.7%で、全国より5.9ポイント多く、昨年度より9.9ポイント増加した。



【授業】「友人に尋ねる」が29.5%と一番多く、次に「授業が終わってから先生に尋ねる」が17.3%となった。「その場で先生に尋ねる」と「授業が終わってから先生に尋ねる」と答えた割合が26.9%で、全国より7.3ポイント多い。



## 中学校:数学の学習

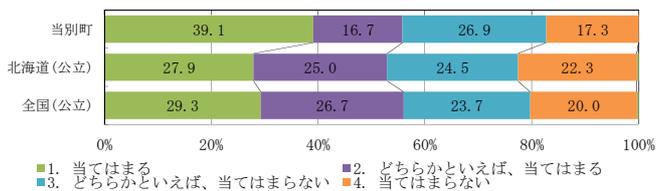
### 【特徴】

①「数学の勉強は好きですか」との質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合が39.1%と高く、全国と昨年度に比べてを大きく上回った。

②「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」との質問に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が昨年度より1.5ポイント増えたものの、全国より8.0ポイント少ない結果となった。

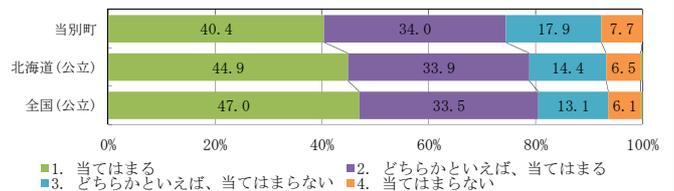
③数学の学習に関して10問中、7問で昨年度の結果を上回り、数学での授業規律、指導方法の工夫改善の成果が窺える。引き続き、授業に数学的な思考・論理を積極的に取り入れるなど、授業を工夫するとともに、生徒の数学に対する関心・意欲を高められるようICT機器の活用や小・中連携の実態に即した授業改善に取り組む必要がある。

#### 「数学の勉強は好きですか」



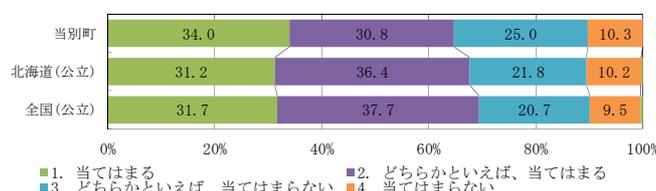
【数学】「数学の勉強が好き」と答えた生徒の割合は39.1%で、全国より9.8ポイント多く、昨年度より11.9ポイント増加した。

#### 「数学の勉強は大切だと思いますか」



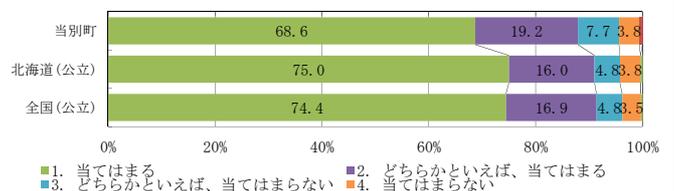
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は74.4%で、全国より6.1ポイント少なく、昨年度より0.9ポイント増加した。

#### 「数学の授業の内容はよくわかりますか」



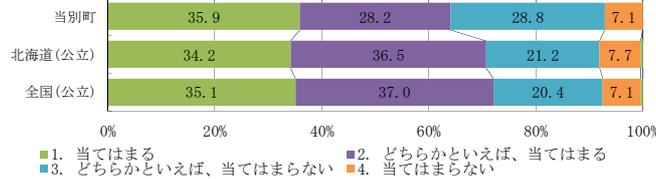
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は64.8%で、全国より4.6ポイント少なく、昨年度より5.6ポイント増加した。

#### 「数学ができるようになりたいと思いますか」



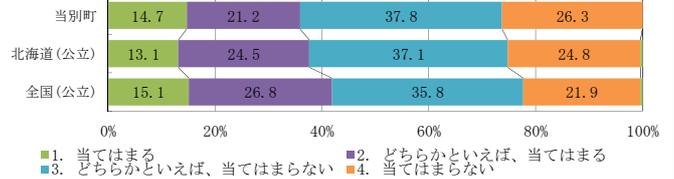
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は87.8%で、全国より3.5ポイント少なく、昨年度より0.7ポイント増加した。

#### 「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」



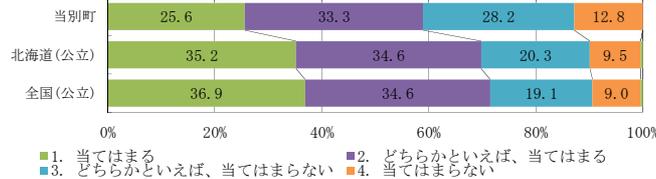
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は64.1%で、全国より8.0ポイント少なく、昨年度より1.5ポイント増加した。

#### 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」



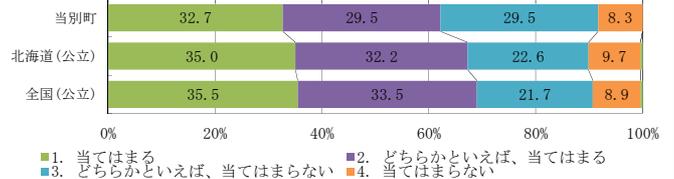
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は35.9%で、全国より6.0ポイント少なく、昨年度より4.6ポイント増加した。

#### 「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」



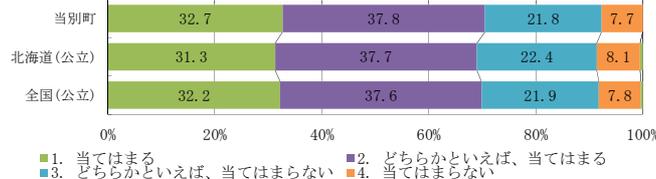
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は58.9%で、全国より12.6ポイント少なく、昨年度より5.1ポイント減少した。

#### 「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」



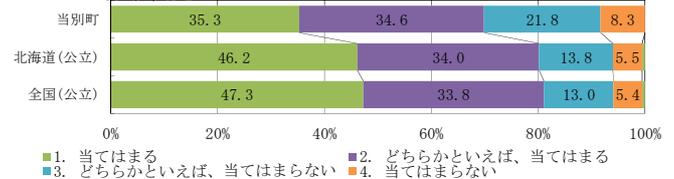
【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は62.2%で、全国より6.8ポイント少なく、昨年度より1.1ポイント減少した。

#### 「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」



【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は70.5%で、全国より0.7ポイント多く、昨年度より10.6ポイント増加した。

#### 「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」

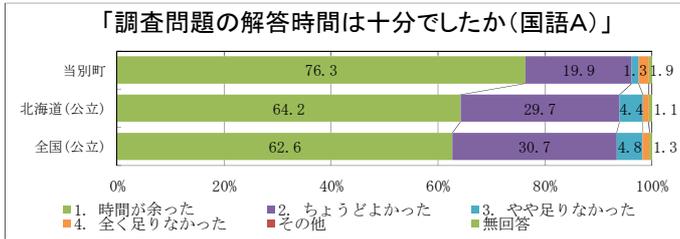


【数学】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合は69.9%で、全国より11.1ポイント少なく、昨年度より7.6ポイント減少した。

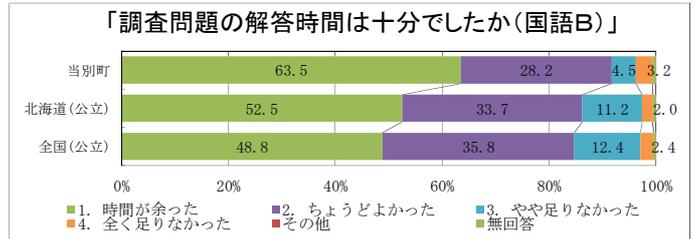
## 中学校:調査時間

### 【特徴】

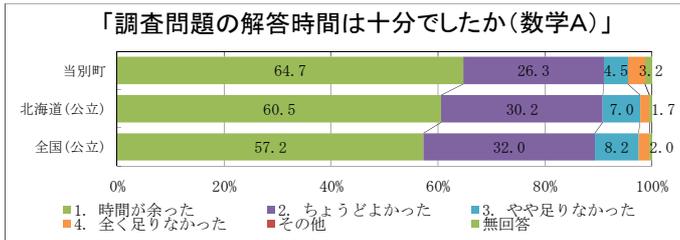
① 国語A、数学A、国語Bで、9割以上の生徒が「時間が余った」、「ちょうどよかった」と答えています。数学Bでは、「時間が余った」、「ちょうどよかった」と回答した生徒の割合が67.3%で昨年度より大きく下回った。今年度は、「与えられた条件から説明する。数学的に表現する」という趣旨の記述式問題で無回答率が多く、苦労したことが窺える。



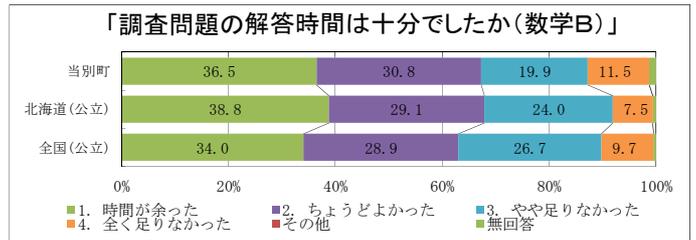
【調査時間】《国語A》「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は96.2%で全国より2.9ポイント多く、昨年度より1.1ポイント減少した。



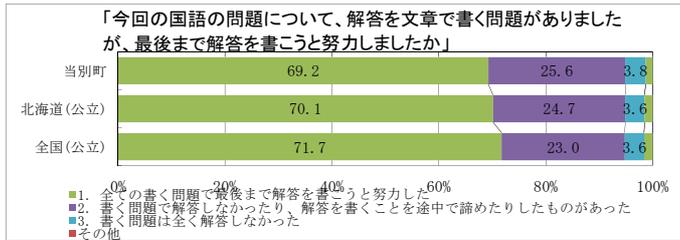
【調査時間】《国語B》「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は91.7%で全国より7.1ポイント多く、昨年度より2.2ポイント減少した。



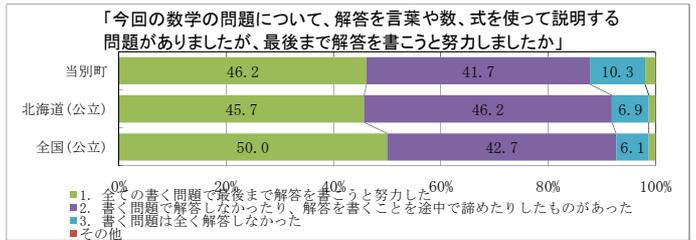
【調査時間】《数学A》「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は91.0%で全国より1.8ポイント多く、昨年度より2.2ポイント減少した。



【調査時間】《数学B》「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えた生徒の割合は67.3%で、全国より4.4ポイント多く、昨年度より14.3ポイント減少した。



【国語】「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」が69.2%で、全国より2.5ポイント少なく、昨年度より0.2ポイント減少した。



【数学】「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」が46.2%で、全国より3.8ポイント少なく、昨年度より8.1ポイント増加した。

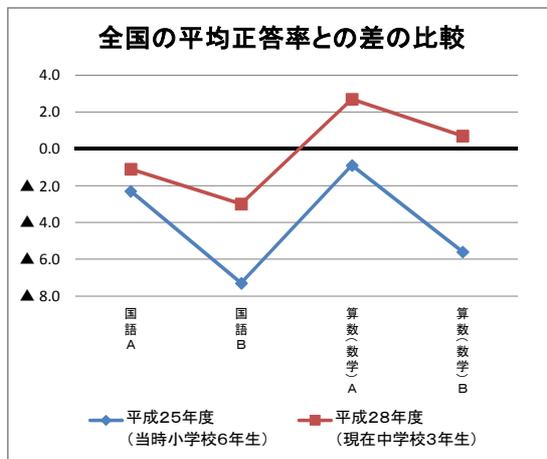
## V 小学生から中学生への経年変化

平成25年度調査時に小学校6年生だった児童が、今年度には、中学校3年生になって同調査を受けている。平成25年度と今年度における学力を比較した。

### 1) 学力の経年変化

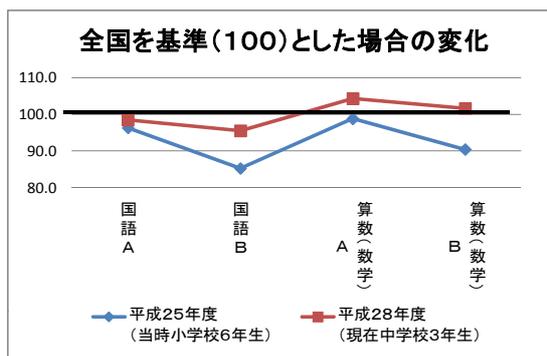
全国の平均正答率との差の比較

		国語A	国語B	算数(数学)A	算数(数学)B
平成25年度 (当時小学校6年生)	当別町	60.4	42.1	76.3	52.8
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
	全国との差	▲ 2.3	▲ 7.3	▲ 0.9	▲ 5.6
平成28年度 (現在中学校3年生)	当別町	74.5	63.5	64.9	44.8
	全国	75.6	66.5	62.2	44.1
	全国との差	▲ 1.1	▲ 3.0	2.7	0.7



全国を基準(100)とした場合の変化

		国語A	国語B	算数(数学)A	算数(数学)B
平成25年度 (当時小学校6年生)		96.3	85.2	98.8	90.4
平成28年度 (現在中学校3年生)		98.5	95.5	104.3	101.6
全国		100	100	100	100



※平均正答率では、問題数の違いやその年の難易度があるので、全国の平均正答率を100とした基準点を設定し、正当比を比較している。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合の変化

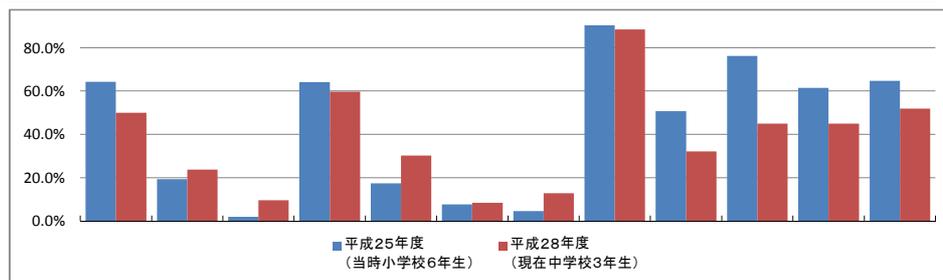
年度	国語A			国語B			算数A			算数B			
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	
平成25年度(当時小学校6年生)	25.6%	26.4%	23.1%	26.9%	23.6%	20.1%	23.7%	28.1%	23.7%	32.0%	33.4%	27.4%	
全国との差	18問中8問以下		多い	10問中2問以下		多い	19問中12問以下		0.0%	13問中5問以下		多い	
平成28年度(現在中学校3年生)	29.0%	28.3%	26.5%	30.2%	27.8%	25.4%	23.0%	26.8%	25.1%	20.9%	22.9%	21.3%	
全国との差	33問中22問以下		多い	9問中4問以下		多い	36問中16問以下		-2.1%	少ない	15問中3問以下		-0.4%
全国との差の比較	2.5%		多い	4.8%		多い	-2.1%		減少	-5.0%		減少	

#### 特徴

- 平成25年度の当時小学校6年生と平成28年度の現在中学校3年生の平均正答率で全国との差を経年比較すると、国語Aでは1.2ポイント、国語Bでは4.3ポイント向上した。算数Aと数学Aでは3.6ポイント、算数Bと数学Bでは6.3ポイント向上した。国語、算数、数学ともにBの「活用」に関する問題が、平成25年度時より大きく向上しており、今年度の数学A・Bでは、全国を上回る結果になった。
- 今年度の下位層は、平成25年度と比べて、国語Aを除き減少した。中学校での頑張りが窺える。
- 学力向上の要因として、「ICT機器の導入による授業の効率化」、「小・中学校の教職員の授業交流による学習過程の共通理解」が進み、「授業改善に結びついた」と推察できる。
- さらに小学校と中学校の連携を強化し、つまづきの原因を発見しながら、解決に向けた学習指導を図っていく必要がある。

## 2) 生活習慣・学習環境等の経年変化

	平日1時間以上勉強する	平日2時間以上勉強する	平日勉強は全くしない	休日1時間以上勉強する	休日2時間以上勉強する	休日3時間以上勉強する	休日勉強は全くしない	家で宿題をしている・どちらかといえばしている	家で予習をしている・どちらかといえばしている	家で復習をしている・どちらかといえばしている	家で計画を立てて勉強している・どちらかといえばしている	学習塾に通っていない
平成25年度 (当時小学校6年生)	64.2%	19.3%	1.9%	64.1%	17.3%	7.7%	4.5%	94.3%	50.7%	76.2%	61.5%	64.7%
平成28年度 (現在中学校3年生)	50.0%	23.7%	9.6%	59.7%	30.2%	8.4%	12.8%	88.5%	32.1%	44.9%	44.9%	51.9%
増減	▲14.2%	+4.4%	+7.7%	▲4.4%	+12.9%	+0.7%	+8.3%	▲5.8%	▲18.6%	▲31.3%	▲16.6%	▲12.8%

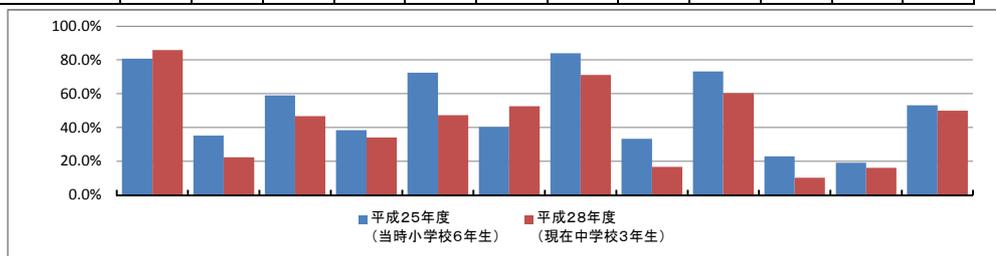


### 特徴

○平日の家庭学習の時間は、中学生になって「1時間程度学習する」が14.2ポイント減少し、「2時間程度学習する」が4.4ポイント増加している。休日の学習時間も中学校になるに従って、家庭での学習時間が長くなっている傾向にある。

○反面、平日・休日ともに家庭学習を「全くしない」生徒が、小学生時代から増加している。中学校に入って部活動で活動していると帰宅時刻が遅くなり、家庭学習の開始時刻が遅くなる傾向がある。中学生一人ひとりの事情が違ってくるので、安定した家庭学習時間を確保するため、学校と家庭が連携し、規則正しい生活サイクルを創り出すことが必要である。

	朝食を毎日食べている	毎日同じくらいに寝る	毎日同じくらいに起きる	自分には、よいところがある	将来の夢や目標を持っている	学校のきまり(規則)を守っている	いじめは、いけないことだと思っている	今住んでいる地域の行事に参加している	人の役に立つ人間になりたい	週に1回以上、学校図書館や地域の図書館に行く	平日1時間以上読書をする	読書が好き
平成25年度 (当時小学校6年生)	80.8%	35.3%	59.0%	38.5%	72.4%	40.4%	84.0%	33.3%	73.1%	23.0%	19.2%	53.2%
平成28年度 (現在中学校3年生)	85.9%	22.4%	46.8%	34.0%	47.4%	52.6%	71.2%	16.7%	60.3%	10.2%	16.1%	50.0%
増減	+5.1%	▲12.9%	▲12.2%	▲4.5%	▲25.0%	+12.2%	▲12.8%	▲16.6%	▲12.8%	▲12.8%	▲3.1%	▲3.2%



### 特徴

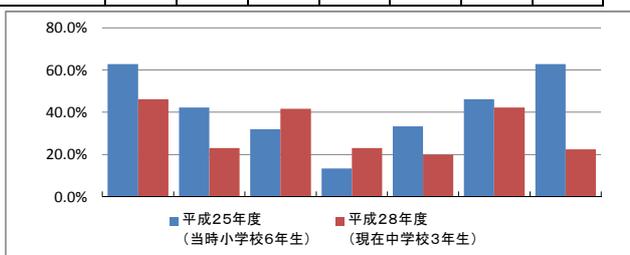
○朝食の摂取が小学生時代より増加している。就寝・起床時間や朝食摂取の基本的な生活習慣が改善するように引き続き、学校、保護者が連携して、生活リズムの安定を働きかけることが大切である。

○中学生になり「学校の規則を守っている」が12.2ポイント向上している。しかし、「いじめはいけないことだと思っている」が12.8ポイント減少している。「道徳教育」や「人権教育」による心の醸成が必要である。

○「将来についての夢や目標が持てない」生徒が大幅に増加している。キャリア教育の充実が必要である。

○「読書」関係の質問に対して肯定的な回答が全体的に減少傾向を示している。小学校では巡回図書館の取り組みや読み聞かせ、朝読書の取り組みなど、児童レベルに合った図書整備が進んでいると推察できる。中学校ではアンケート調査を実施しながら、生徒のニーズを捉え、生徒に合った図書の選書、図書環境の整備が必要である。

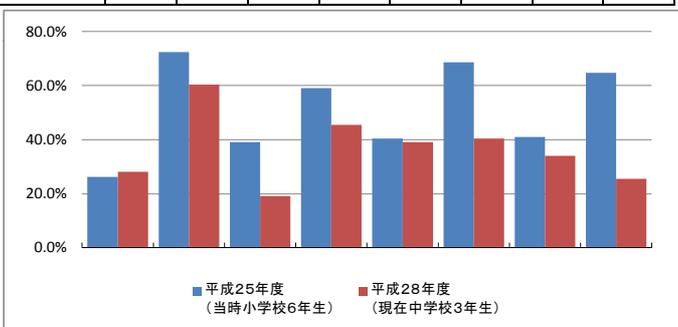
	平日2時間以上テレビ・DVDを見る	平日3時間以上テレビ・DVDを見る	平日2時間以上ゲームをする。	平日3時間以上ゲームをする。	家の手伝いをしている。	家の人と学校での出来事について話している	携帯電話・スマートフォンを持っていない
平成25年度 (当時小学校6年生)	62.8%	42.3%	32.0%	13.4%	33.3%	46.2%	62.8%
平成28年度 (現在中学校3年生)	46.1%	23.0%	41.7%	23.1%	19.9%	42.3%	22.4%
増減	▲16.7%	▲19.3%	+9.7%	+9.7%	▲13.4%	▲3.9%	▲40.4%



### 特徴

○中学生になり7割以上の生徒が携帯電話やスマートフォンを持っていることがわかった。TVやDVDなどの視聴時間が大幅に減少し、代わりに携帯電話等を利用したメッセージアプリやゲーム、インターネット等を行う時間が増加したものと推察される。家庭での決まりごとについて、再点検するなど生活改善に取り組む必要がある。

	国語は好き	国語は大切だ	国語の授業はよく分かる	国語は将来役に立つ	算数(数学)は好き	算数(数学)は大切だ	算数(数学)の授業はよく	算数(数学)は将来役に立つ
平成25年度 (当時小学校6年生)	26.3%	72.4%	39.1%	59.0%	40.4%	68.6%	41.0%	64.7%
平成28年度 (現在中学校3年生)	28.2%	60.3%	19.2%	45.5%	39.1%	40.4%	34.0%	25.6%
増減	+1.9%	▲12.1%	▲19.9%	▲13.5%	▲1.3%	▲28.2%	▲7.0%	▲39.1%



### 特徴

○各教科ともに「好き」「大切」「授業が内容はよくわかる」と答えていた割合が、小学生から中学生になると減少傾向を示している。

○学力調査の経年変化では相対的に向上していると判断できるが、中学校の授業のスピードや難易度が上がり、理解しないままに授業が進んでいる傾向が窺える。各教科の授業過程の共通化により、1時間のまとめや振り返りを確実に実施することにより「何を勉強したか」「何がわかったか」が、生徒が実感でき、また、興味や関心を持つ授業の組み立てなど、授業の一層の工夫改善が必要である。

## VI 教育委員会としての学力・生活習慣の向上に向けた取り組み

### 1 授業改善への支援

- ① デジタル教科書の導入とICT機器の充実（電子黒板機能付きプロジェクター、書画カメラの全学校全クラスへの配置）及び教職員の活用研修の実施。
- ② アクティブ・ラーニングの視点に立った授業についての研修。
- ③ T・T（ティーム・ティーチング）や少人数、習熟度別指導実施のための教職員の加配。
- ④ 退職人材活用事業、学校支援地域本部事業、小中一貫教育推進講師、特別支援教育支援員、SAT（スクールアシスタントティーチャー）、ALTなどによる人的支援。

### 2 小中一貫教育の推進

9年の連続した教育課程、小中学校教員の区分にとらわれない指導、地域や保護者を巻き込んでの学校運営など、小中一貫教育を平成29年度より展開する。

それにより確かな学力、豊かな心、健やかな体のさらなる向上、育成を図る。

### 3 家庭教育の啓発

- ① 乳幼児と保護者へのブックスタート事業の拡大と家読の推奨。
- ② 教育委員会発行の「当別町家庭教育の手引き」と学校発行の「家庭学習の手引き」による家庭教育の推進。

### 4 その他の学校支援

- ① 読書の習慣づけのための図書館司書、読み聞かせボランティアの派遣。
- ② 長期休業中の補習への講師派遣。
- ③ 放課学習、土曜学習の実施。

